

平成26年度

教育事務に関する 点検及び評価報告書

《平成25年度事業分》

平成26年12月

七戸町教育委員会

はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、その報告書を議会に提出するとともに、公表することが義務づけられました。また、その際、客観性を確保する観点から、教育委員会以外の学識経験者による知見の活用を図ることになりました。

七戸町教育委員会では、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民の皆様への説明責任を果たすため、学識経験者からなる「七戸町教育評価審議会」からご意見等をいただきながら、教育委員会の事務の管理・執行状況について点検及び評価を行い、報告書を作成いたしました。

この結果をこれからの施策等に反映させ、教育施策を着実に推進していきたいと考えておりますので、町民の皆様のより一層のご理解とご協力をお願いいたします。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

- 第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務
その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。
- 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

目 次

I	点検・評価の概要	1
II	七戸町教育施策の方針	2
III	平成25年度事業分 教育委員会の活動状況について	10
IV	平成25年度事業分 教育委員会の事務事業点検評価について	
	学務課の事業評価と今後の課題	12
	生涯学習課の事業評価と今後の課題	18
	スポーツ振興課の事業評価と今後の課題	24
	七戸中央公民館の事業評価と今後の課題	27
	七戸南公民館の事業評価と今後の課題	32
	七戸中央公民館の事業評価と今後の課題	34
V	平成25年度事業分 教育委員会の事務事業に対する意見	36
VI	平成25年度事業分 施策別主要事業一覧	37
	事業評価シート	38

I 点検・評価の概要

1 点検・評価の対象

(1) 点検・評価の対象

七戸町教育施策の方針に基づいて実施する学校教育、社会教育、社会体育、文化財保護と芸術文化振興等の各分野を構成する主な事務事業を対象に点検・評価を行った。

(2) 点検・評価の方法

各分野、施策に属する事務事業を点検・評価するため、事務事業ごとに事業費、目的、事業効果等を整理し、その結果に基づいて事業評価及び今後の取組等について記載した。

(3) 学識経験者の知見の活用

教育委員会が実施した点検・評価の客観性を確保するため、教育評価審議会を開催し、教育に関し学識経験を有する者（教育評価審議会委員2人）から意見をいただき、点検・評価の実施と報告書の作成を行った。

2 点検・評価作業の経緯

平成26年6月 3日	点検・評価に係る事務打合せ
10月28日	第1回教育評価審議会
11月11日	第2回教育評価審議会
11月19日	文教厚生常任委員会へ報告
11月20日	定例教育委員会へ報告
12月 5日	第4回町議会定例会へ報告

3 評価報告書の公表

評価報告書は、七戸町ホームページに掲載し公表する。

4 点検・評価に際し、委嘱した学識経験を有する者

松林 和子（七戸神明宮宮司）

金澤 護（甲地郵便局長）

Ⅱ 七戸町教育施策の方針

七戸町教育委員会は、「潤いと彩りあふれる田園文化都市」の形成に向け、健康で、創造性に富み、新しい時代を主体的に切り拓く町民の育成を目指し、

- 1 学び・自立・共生の力をはぐくむ学校教育
 - 2 自己の啓発・向上と社会参加を実現する社会教育
 - 3 芸術・文化の伝承・創造と文化財の保存・活用
 - 4 健康増進と体力向上を促進する生涯スポーツ
- を、関係機関・団体、地域との密なる連携を図りながら推進します。

学校教育の方針と重点

1 方針

青森県教育委員会の「学校教育指導の方針・重点」との関連を図り、教育は人づくりという視点に立って、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな子どもの育成を目指し、学び・自立・共生の力をはぐくむ学校教育の推進に努める。

2 重点

(1) 確かな学力の育成

子ども一人一人が、各教科や総合的な学習の時間等において主体的な取組を通して確かな学力を身に付けることができるよう、言語活動の充実を図りながら、一人一人の能力・適性に応じた指導と学習習慣の育成に努める。

ア. 分かる授業の充実

- ・学習指導要領に示された各学年で習得すべき内容の確かな理解・定着
- ・学習の実態を踏まえた教材の工夫と教材研究による「分かる授業」の徹底

イ. 個に応じた指導の充実

- ・習熟の程度等を踏まえたきめ細かな指導の工夫
- ・必要に応じて補充的学習や発展的学習の導入

ウ. 指導の在り方の工夫

- ・指導と評価の一体化による指導方法等の工夫
- ・主体的な学習習慣の形成を目指す意図的継続的な指導方法の工夫

(2) 豊かな心の育成

子ども一人一人が、人間尊重と生命への畏敬の念を根底に据えて人間としての在り方や生き方ができるよう、その基盤となる道德性の育成に努める。

ア. 道德教育の要としての「道德の時間」の充実

- ・子どもの道德性の実態に即した指導方法の工夫
- ・道德的価値について主体的な自覚を深めていく資料の選択・効果的な活用

イ. 積極的な生徒指導の充実

- ・子ども同士及び子どもと教師間の好ましい人間関係を重視した子どもの居場所となる温かな学級づくりの工夫
- ・ガイダンスやカウンセリングマインドの機能を活かした教育相談の実施

ウ. 体験活動等の推進

- ・ねらいを明確にしたボランティア活動や自然体験、郷土の伝統・文化に親しむ活動等の積極的な取組
- ・読書習慣を身に付けるための読書活動や学校図書館の有効活用

(3) 健やかな身体の育成

子ども一人一人が、生涯にわたり自ら進んで運動に親しみ、保健・安全で活力のある生活を送

ることができるよう、家庭や地域社会との連携を図りながら、心と体を一体としてとらえ、健康でたくましい体をはぐくむ教育の推進に努める。

ア. 運動に親しむ資質や能力の育成及び体力の向上を図る指導の充実

イ. 健康に関する知識を身に付け、自ら健康な生活を実践できる指導の充実

ウ. 食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができる指導の充実

エ. 安全に関する情報を正しく判断し、安全を確保することができる指導の充実

(4) 特別支援教育の充実

発達障害を含む障害のある子どもが、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善、克服するとともに、そのもてる力を最大限に発揮して自立や社会参加ができるよう、一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援に努める。

ア. 校内支援体制の整備・充実

イ. 個別の指導計画の作成と活用による指導の充実

ウ. 個別の教育支援計画の作成と活用による関係機関と連携した支援の充実

エ. 交流及び共同学習の推進

(5) 学校の自主性・自立性の確立

教育目標の具現化を図るため、幼稚園及び学校運営の充実とそれに参画する教職員の資質能力の向上に努める。

ア. 職能成長への取組

- ・教育活動に対する説明及び結果についての責任を果たせる識見・指導力等高める自己研修の奨励
- ・学校運営組織の一員としての自覚及び協働意識の高揚を目指す管理職や主任等のリーダーシップの発揮

イ. 危機管理体制の充実

- ・いじめ・不登校・非行及び学校管理下における事故・不審者侵入・登下校時における事件・非常災害等の不測の事態に即応できる危機管理体制の整備と危機管理能力の向上
- ・安全・安心で快適な生活が過ごせる教育環境づくり

ウ. 学校評価に基づく学校運営の改善

- ・高い教育力に基づく信頼される学校を目指して学校内外の評価による学校運営の積極的な改善
- ・学校運営の透明性や教育活動に対する責任所在の明確化による校内外に開かれた学校づくり

(6) キャリア教育の推進

一人一人の子どもが、自らの生き方を考え、社会的・職業的自立ができるよう、必要な基盤となる資質、能力、態度の育成に努める。

ア. キャリア教育指導体制の整備・充実

イ. 将来の生き方指導・進路指導の充実

ウ. 児童生徒の発達の段階に応じた勤労観・職業観の育成

(7) 環境教育の推進

一人一人の子どもが、環境と人間とのかかわりについて関心と理解を深め、環境に対する豊かな感受性を養うことができるよう、環境保全に主体的に取り組む態度の育成に努める。

- ア. 教科等間の連携を踏まえた指導の工夫
- イ. 地域の環境の実態に即した指導の工夫
- ウ. 環境にかかわる体験学習の推進

(8) 国際化に対応する教育の推進

一人一人の子どもが、我が国や諸外国の文化と伝統について関心と理解を深めるとともに、国際社会に貢献できるよう、国際理解教育の推進に努める。

- ア. 郷土に対する愛着と誇りを涵養する教育の推進
- イ. 外国語指導助手等の活用や言語活動の工夫・充実による、外国語を通じたコミュニケーション能力の育成
- ウ. 異なった文化や習慣をもつ人々との交流の推進

(9) 情報化に対応する教育の推進

一人一人の子どもが、情報活用能力を身に付けることができるよう、情報モラルにかかわる指導の充実を図り、系統的・体系的な情報教育の推進に努める。

- ア. 情報教育を推進する指導体制の整備・充実
- イ. 学習指導におけるコンピュータ等の適切な活用の推進
- ウ. 情報通信ネットワーク等を適切に活用した教育の推進

(10) 研修の充実

教職の専門性を高め、教育活動の充実を図るため、計画的・積極的な研修の推進に努める。

- ア. 校内研修体制の整備・充実
- イ. 学校の教育課題解決のための実践的研究の充実
- ウ. 家庭や地域社会と連携した特色ある教育活動の研究・推進
- エ. 教育要領・学習指導要領に基づく実践的研究の充実

社会教育の方針と重点

1 方針

町民が、自己の向上を目指して生きがいのある充実した生活を送るとともに、人と人のつながりを大切にする豊かで住みよい地域社会をつくり出すことができるよう、一人一人の生涯にわたる学習と社会参加を実現する社会教育の推進に努める。

2 重点

(1) 一人一人の主体的な学習と社会参加の推進

町民一人一人の主体的な学習活動と社会参加活動の支援の充実に努める。

ア. 多様な学習活動の支援

イ. 学習成果を生かした社会参加活動の支援

(2) 次代を担う青少年の育成

心豊かでたくましい青少年の育成に努める。

ア. 青少年の体験活動の充実

イ. 子どもの読書活動の充実

(3) 地域を支える人材の育成

地域を支え、地域に貢献する人材の育成に努める。

ア. 地域活動の実践者の育成

イ. 地域活動の指導者、コーディネーターの養成

(4) 学校・家庭・地域の連携による社会全体の教育力の向上

学校・家庭・地域の連携を強化し、社会全体の教育力の向上に努める。

ア. 学校と地域の協働による教育活動の充実

イ. 家庭教育支援の充実

ウ. 地域全体で子どもを育むための仕組みづくり

(5) 社会教育推進のための基盤整備

生涯学習の振興に資する社会教育推進基盤の整備・充実に努める。

ア. 社会教育推進体制の充実

イ. 社会教育施設の機能の充実と活用の促進

ウ. 社会教育関係職員の養成と資質の向上

エ. 社会教育関係団体の活動の支援

文化財保護と芸術文化振興の方針と重点

1 方針

町民一人一人が、郷土に対する愛着と誇りをもち、潤いのある生活の実現を目指すとともに、未来に伝える貴重な文化財の保存・活用に努める。

また、芸術文化の鑑賞などを通じて心豊かな町民の育成に努める。

2 重点

(1) 芸術文化活動の充実

芸術文化団体及びサークル等の自主的な活動を奨励し、その伝承・創造を促進するための支援に努める。

ア. 鷹山宇一記念美術館等との連携による芸術鑑賞の機会の提供

イ. 児童応募作品展等の開催

(2) 文化財の保護・保存・活用

ア. 指定文化財や未指定文化財の保護に努める

イ. 埋蔵文化財包蔵地の保護に向けた関係機関との連携

ウ. 史跡や名勝、天然記念物の保存のための環境保全

エ. 「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」の世界文化遺産登録に向けた取組の推進

(3) 伝統芸能・工芸技術等の継承

郷土に伝わる伝統芸能・工芸技術等の保存・継承を奨励し、それに相応しい環境の整備に努める。

ア. 伝統芸能の保存と工芸技術等の継承に努める

イ. 町内に伝わる無形民俗文化財の発表機会の支援

(4) 文化交流センター施設の整備活用の充実

ア. 文化交流センター内にある資料の保管充実と教育普及に努める

社会体育の方針と重点

1 方針

町民が、健やかで活力に満ちた生活の実現を目指すとともに、健康の維持増進・体力の向上に必要なスポーツ活動及び夢や感動を与える競技者・団体の育成等を通じて生涯スポーツ社会の実現に向けた環境づくりの推進に努める。

2 重点

(1) 生涯にわたるスポーツライフの実現

心身両面にわたる健康の維持増進と体力の向上を図るとともに、町民1スポーツの普及・奨励に努める。

ア. スポーツに親しむ環境づくり

- ・スポーツへの興味・関心を高める各種教室・講習会等の開催やスポーツ活動の機会の提供
- ・健康とスポーツとの関わりや気軽にできる軽スポーツ等の情報の提供

イ. 地域スポーツ活動の普及・奨励

- ・町民相互の連携及び地域の活力の醸成を図るスポーツ交流の普及・奨励
- ・誰でも親しめる総合型地域スポーツクラブ設置の取組

(2) 競技者の育成を図る環境づくり

競技者の競技力の向上を図るとともに、トップレベルの競技者の育成に努める。

ア. 競技力を高める環境づくり

- ・町体育協会やスポーツ少年団等の自主的な活動の奨励・支援
- ・スポーツ科学を導入した指導者の養成と研修機会の提供

イ. 各種スポーツ大会出場の奨励

- ・競技選手の強化練習の充実
- ・指導技術に長けた指導者の活用

(3) スポーツ振興の体制整備

生涯にわたるスポーツライフの実現を目指し、スポーツに親しみ競技力を向上させる体制整備に努める。

ア. 指導者の確保

- ・要請に応じて地域やスポーツ団体へ派遣できる指導者の体制整備・活用
- ・スポーツ推進委員や体育協会会員の研修会・講習会等への派遣

イ. スポーツ振興の充実

- ・体育協会を中核として各種スポーツ団体や職域団体、地域の代表者等の相互理解に基づく生涯スポーツへの取組

ウ. 社会体育施設等の有効活用の促進

- ・スポーツ担当職員の研修の充実と実地指導による支援
- ・スポーツ活動に関する情報の収集・発信

公民館の方針と重点

1 方針

地域住民の学習活動の拠点としての機能の充実を図るとともに、社会教育団体や、学習サークル等の活動する場の提供と支援に努める。

2 重点

(1) 公民館等の充実及び活用の促進

- ア. 多様な学習プログラムの開発と学習資料の整備
- イ. 自己啓発、向上に資する講座・研修会等の開催
- ウ. 各分野のリーダーの計画的・体系的な育成

(2) 社会教育団体や学習サークル等の活動への支援

- ア. 学習活動を支援する指導者・コーディネーター等の紹介・斡旋
- イ. 学習活動に必要な施設設備等の有効活用及び情報機器等による学習情報の提供
- ウ. 各種発表会・展示会等、文化創造活動の機会と場の提供

図書館の方針と重点

1 方針

地域住民の資料や情報センターとしての役割を果たすとともに、ボランティア団体等の活動の支援や利用者のニーズに対応した環境整備と情報提供に努める。

2 重点

(1) 図書資料の整備充実と利用の促進

- ア. 利用者の学習ニーズに対応した図書の整備と情報提供

(2) 読書活動の推進

- ア. 子ども読書活動の支援と推進
- イ. ブックスタート事業の推進
- ウ. ボランティア活動の育成と支援

Ⅲ 平成25年度事業分 教育委員会の活動状況について

教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、5人の委員をもって組織し、学校その他の教育機関の設置、管理及び廃止に関することや教育財産の管理に関すること、学校の教育課程、学習指導、生徒指導等に関すること等について、管理、執行することとされている。

1 教育委員の構成

平成26年3月現在

役 職 名	氏 名	任 期
委 員 長	附 田 道 大	平成24年5月17日～平成28年5月16日
委員長職務代行者	内 山 優	平成23年5月17日～平成27年5月16日
委 員	山 本 貴 子	平成22年5月17日～平成26年5月16日
委 員	福 田 雅 行	平成25年5月17日～平成29年5月16日
教 育 長	神 龍 子	平成25年5月17日～平成29年5月16日

2 教育委員会の開催状況

七戸町教育委員会の会議は、毎月1回開催するほか、必要に応じて臨時会議を開催している。

また、所管する事項について調査及び研究を行い、現状の把握や課題の解決に努めるなど、教育行政の推進を図っている。

(1) 教育委員会会議（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

開 催 回 数		付 議 案 件			
定 例 会	臨 時 会	報 告	議 案	協 議	選 挙
12	4	43	42	7	1

3 教育委員の会議以外の活動状況

教育委員は、毎月1回開催する定例会議、必要に応じて臨時会議に出席しているほか、学校等の教育関連施設を訪問して教育現場の状況を把握するとともに、研修会や教育委員会主催の各種行事に参加し、委員としての幅広い識見を養い、当町の教育行政の向上に努めている。

主な活動

- ・ 学校訪問（幼稚園、小学校4校、中学校3校）
- ・ 上十三教育委員会連合会研修会
- ・ 青森県教育委員会連合会研修会
- ・ 東北六県教育委員会連合会研修会
- ・ 幼稚園、各小・中学校の入学式や卒業式等の学校行事
- ・ 成人式
- ・ 教育奨励賞授与式

- 教育福祉援助基金授与式
- 奨学生選考委員会

IV 平成25年度事業分 教育委員会の事務事業点検評価について

学務課の事業評価と今後の課題

(目標)

子どもたちの調和のとれた「知・徳・体」の育ちを基調とし、目標に向かって自ら学び続け、生きがいのある充実した生活を自らの力で築き上げ、郷土を大切に携えて生きる「豊かな心と実践力」のある人づくりを目指す学校教育を推進する。

(取組の概要)

青森県教育委員会の「学校教育指導の方針・重点」との関連を図り、教育は人づくりという原点に立って、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな子どもの育成を目指し、学び・自立・共生の力をはぐくむ学校教育の推進に努めた。

(1) 確かな学力の育成

子ども一人一人が、各教科や総合的な学習の時間等において主体的な取組を通して確かな学力を身に付けることができるよう、言語活動の充実を図りながら、一人一人の能力・適性に応じた指導と学習習慣の育成に努める。

①あおもりっ子育みプラン21（事業明細番号1(1)①）

少人数学級編制による児童への指導の充実を図るため、非常勤講師を、七戸小学校2名、天間西小学校1名の計3名を配置した。

(今後の課題と対応方向)

本事業は青森県教育委員会の事業であり、町の財政的負担はない。教職員の事務量が増大してきている中で、児童へのきめ細かな学習指導を行う上で非常に有効な事業であり、今後も県に対して要望・申請していきたい。

(2) 豊かな心の育成

子ども一人一人が、人間尊重と生命への畏敬の念を根底に据えて、人間としての在り方や生き方ができるよう、その基盤となる道徳性の育成に努める。

①教育奨励賞（事業明細番号1(2)①）

七戸町立小中学校及び幼稚園並びに県立七戸養護学校、県立三本木高等学校附属中学校の児童生徒や園児、教職員で文化活動、スポーツ活動の振興に寄与した者及び善行著しい者に、教育奨励賞を授与した。

(受賞者数)

指導者賞	最優秀賞	優秀賞	優良賞	合計
該当者なし	2人	27人・2団体	82人・11団体	111人・13団体

(今後の課題と対応方向)

教育奨励賞の表彰基準は、規則及び取扱要項で定められているが、毎年、新規の大会やコンクール等が開催されるため、表彰基準と整合性がとれないものがある。

今後は、審議委員会等の設置、規則及び取扱要項の見直しについて検討が必要である。

②教育福祉援助基金給付事業(支給額：50,000円)(事業明細番号1(2)②)

高等学校、高等専門学校へ進学し、勉学等に意欲的に取り組み、他の模範となる生徒に対し、七戸町民として自覚と誇りを持って学業に励んでもらうために、入学祝金として奨学金を授与した。

(授与者数)

七戸地区	天間林地区
18人	12人

(今後の課題と対応方向)

本事業は、保護者から大変喜ばれている。今後は、各学校の予定人数のあり方、選考方法を協議し、継続していきたいと考えている。

④奨学資金貸付事業(事業明細番号1(2)③)

七戸町に住所を有する者の子弟で、優れた学生及び生徒であって経済的理由により修学困難な者に対して、奨学金の貸付又は支払利子の一部を補給し、人材育成を図った。

本年度は、利子補給の希望はなかったが、新たに17人に奨学金を貸し付けした。

(延べ貸付者数)

七戸地区	天間林地区
延べ 149人	延べ 203人

(今後の課題と対応方向)

奨学金貸付事業は、条例では、優れた学生であって経済的理由により修学が困難な者、また、募集要項では世帯の所得が基準以下であることが条件となっている。本年度は、昨年度の選考委員会で設定した世帯の収入需要額2.0以下を基準として、貸付対象者を選考した。今後もこの基準に基づき、継続していくべきと考える。

貸付金の償還については、長年にわたって数名の返済が滞っていることから、個別相談や指導により返済を促してきたが、今後も滞納者に対する個別相談・指導を徹底していく必要がある。

(3) 健やかな身体の育成

子ども一人一人が、生涯にわたり自ら進んで運動に親しみ、健康でたくましい体をはぐくむ教育の推進に努める。

①七戸町児童生徒対外遠征費補助事業（事業明細番号1(3)③）

児童・生徒の体育活動及び文化活動の向上を図るため、学校教育活動における県大会以上の大会へ参加する場合の遠征費等を補助した。

本年度は、七戸中学校7団体、天間館中学校5団体、榎林中学校1団体の延べ24件に交通費や宿泊費等2,126千円の補助を行い、保護者や引率者の経済的負担を軽減した。

補助した人数は延べで生徒が221名、引率者29名、コーチ16名となっており、全国大会へ1団体、東北大会へ4団体が出場した。

(今後の課題と対応方向)

本事業は、平成23年度に交付要綱を新たに制定し、補助対象・補助内容等について明確にしたが、今年度、運用する上で現状に即していない部分を修正した。保護者及び学校から大変喜ばれている事業で、保護者及び引率者、指導者等の経済的負担を軽減するため、今後とも交付要綱に従って継続していきたい。

②要保護及び準要保護児童生徒援助事業（事業明細番号1(3)④）

経済的な理由によって就学が困難な児童・生徒の保護者に対し、義務教育の円滑な実施を図るため、認定基準に基づき就学援助費を給付した。認定申請の受付は、年度当初を原則としているが、年度中途の認定申請も必要に応じて行った。

本年度の認定者数は、要保護4名、準要保護153名、給付額は5,606千円となった。

(今後の課題と対応方向)

準要保護世帯の経済的負担の軽減を図るため、本事業は継続していかなければならない。準要保護世帯の認定者は小・中学校合わせて昨年度より22名減少し、給付額は9,974千円減っている。この理由は、今年度から町の給食費補助事業が開始されたことにより、給食費は本事業の補助対象外となったことによる。

小・中学校の在籍数が減ってきているので、認定者数も減っているが、今後も引き続き児童扶養手当受給者の情報等、担当課と連携を図りながら進めていく必要がある。

③学校給食費給付金交付事業（事業明細番号1(3)⑤）

小・中学校の学校給食費を保護者に支給し、経済的負担を軽減することにより、少子化対策及び子育て支援の充実を図るため、今年度より事業開始した。

(今後の課題と対応方向)

少子化対策が直面するさまざまな問題を解決する方法の1つとして、保護者の経済的負担を軽減

するこの事業は非常に重要だと考えられるため、今後も継続していく必要がある。

(4) 特別支援教育の充実

発達障害を含む障害のある子どもが、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善、克服するとともに、その持てる力を最大限に発揮して自立や社会参加ができるよう、一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援に努める。

①特別支援教育支援員設置事業（事業明細番号1(4)①）

小・中学校の通常学級に在籍する学習障害（LD）、注意欠陥／多動性障害（ADHD）、情緒障害など、特別な支援を必要とする児童生徒の学習指導、安全確保、生活指導等の支援を行うため、小・中学校に1～3名ずつ特別支援教育支援員を配置した。

原則：勤務時間 1日6時間・週5日・40週=1,200時間（年間）

小学校		中学校	
七戸小学校	2人	七戸中学校	2人
城南小学校	2人	天間館中学校	2人
天間西小学校	3人	榎林中学校	1人
天間東小学校	1人		

(今後の課題と対応方向)

教育上特別な支援を必要とする児童生徒が増加傾向にあるため、障害に応じた適切な教育を実施する上で本事業は重要となっており、今後も継続していくべきと考えるが、特別支援教育支援員は、町内在住の教職員経験者が望ましいが、なかなか探すのが難しい状況である。

また、本事業の重要性は今後さらに増していくと思われることから、適切で効果的な支援を実践していくためには、専門知識や具体的な支援技術を修得する研修の場を提供していく必要がある。

②学校生活相談員設置事業（事業明細番号1(4)②）

生徒の悩みや不安などを解消するとともに、いじめや不登校等の未然防止、早期発見・早期対応を図るため、本年度は、中学校3校に1～2名ずつ学校生活相談員を配置した。

原則：勤務時間 1日4時間・週3日・35週= 420時間（年間）

中学校	
七戸中学校	2人
天間館中学校	2人
榎林中学校	1人

(今後の課題と対応方向)

生徒の不登校やいじめ等の問題行動は、依然として憂慮すべき状況にあることから、本事業の必

要性は高まっている。今後も継続していくべきと考えるが、学校生活相談員の確保の面では、報酬単価の増額と勤務時間数の増を図り、地元の適任者確保に努める必要がある。

(5) 学校の自主性・自立性の確保

教育目標の具現化を図るため、幼稚園及び学校運営の充実とそれに参画する教職員の資質能力の向上に努める。

①学校評議員設置事業（事業明細番号1(5)①）

学校の教育目標、教育方針及び教育計画、教育活動の実施、学校と地域の連携の進め方、その他学校運営に関することについて、学校長の求めに応じ意見を述べたり助言を行うため、各学校に3名ずつ学校評議員を設置した。

(今後の課題と対応方向)

学校評議員から、学校運営について意見、評価を得ることにより、学校の課題をより明確に捉えることができることから、継続すべきと考える。新しい評議員を探しているが、地域、学校との関わりが深い適任者を見つけることが困難で、再任者が多くなっている。幅広い見地から意見を求めるため、適任者の確保が課題である。

②七戸町教育振興会補助事業（事業明細番号1(5)②）

幼児・児童・生徒の教育文化及び体育の振興と教職員の資質向上に関わる事業を行い、教育の振興を図るため教育振興会に補助を行った。

研修委員会では、七戸町教育の重点目標達成のために、教職員の教育観の確立を図るとともに、指導過程や指導技術の改善向上を目指す研究、研修に取り組んだ。

(今後の課題と対応方向)

本町の保育園から高等学校まで、14の教育機関が縦と横の連携を充実させ、その活動を通して教育水準を高めていく組織であることから、今後も継続すべきだが、事業内容と予算の見直しが必要と思われる。

(8) 国際化に対応する教育の推進

一人一人の子どもが、我が国や諸外国の文化と伝統について関心と理解を深めるとともに、国際社会に貢献できるよう、国際理解教育の推進に努める。

①外国語指導助手（ALT）派遣事業（事業明細番号1(8)①）

幼児や児童・生徒に生きた英語に接する機会を提供し、英語教育の充実と国際理解教育の推進を図るため、2名の外国語指導助手（ALT）を保育園、幼稚園、小学校及び中学校に派遣した。

また、昨年度に引き続き、中部上北広域事業組合教育委員会に依頼し、同所属の外国語指導助手を小学校及び中学校へ派遣した。

(派遣状況)

地区名	七戸地区	天間林地区	(中部上北広域事業組合教育委員会)
氏名	タカハラ・ティモシー	ケーディ・デイビッド	スタンキー・キャサリン
派遣校等	七戸小学校	天間東小学校	城南小学校
	城南小学校	天間西小学校	七戸中学校
	七戸中学校	天間館中学校・榎林中学校	榎林中学校
	保育園・幼稚園	各保育園	

(今後の課題と対応方向)

外国語指導助手については、平成23年度から実施された小学校5・6年生の外国語必修化により必要性が高まっており、今後も継続すべきと考える。平成26年度から中部上北広域事業組合教育委員会では外国語指導助手を招致しないことから、町単独で事業が滞りなく運用できるように体制を構築して行きたい。

(10) 研修の充実

教職の専門性を高め、教育活動の充実を図るため、計画的・積極的な研修の推進に努める。

①ふるさと研修事業（事業明細番号1(10)①）

青森県教育委員会が定める初任者研修実施要領に基づき、七戸町教育委員会研修として、七戸町教職員初任者及び赴任者を対象に、七戸町の教育課題や文化、歴史等について理解を深めてもらうことを目的に開催した。

また、七戸町に赴任した教職員が、各学校の枠を超えて一緒に研修、交流できたことも大きな成果であった。

(今後の課題と対応方向)

研修は、朝8時30分から1日の日程で開催したが、研修場所が広範囲にわたるため、諸施設間の移動に時間を要し、十分な研修、見学時間がとれなかった。今後は、児童生徒の学習活動に役立つ研修内容になるよう、講師及び参加者から意見を聞き、研修場所を精査するなど内容を充実していきたい。

生涯学習課の事業評価と今後の課題

(目 標)

町民が、自己の向上を目指して生きがいのある充実した生活を送るとともに、郷土に対する愛着と誇りを持ち、人とのつながりを大切に、潤いのある住みよい地域社会を自らつくり出すことができるよう、一人ひとりの生涯にわたる学習と社会参加を実現する社会教育を推進する。

さらには、芸術文化の鑑賞などを通じて心豊かな町民の育成と、未来に伝える貴重な文化財の保存・活用に努める。

(前年度の指摘事項への説明)

平成 24 年度七戸町教育評価審議会の指摘事項を踏まえ、事業がマンネリ化していないか課内で検討を重ねた。事業の実施に当たっては、財源が厳しいことを踏まえ、地域の人的資源を活用しながら、町民一人ひとりの生涯学習への意識向上に努めながら実施した。

(各種事業)

(1) 一人一人の主体的な学習と社会参加の推進

多様な学習要求に対する学習機会を提供するとともに、自主的独創的な学習活動を奨励し、高い識見と豊かな創造性を育む町民の育成に努める。

①家庭教育支援総合推進事業（事業明細番号 2(1)①）

家庭教育力の低下が指摘されている中、保護者が多数集まる参観日等の機会を利用し子育て講座・家庭教育講座・思春期講座等を開催した。さらには、町内の全保育園（子育て支援センター）・全小中学校でも開催、講師も町内在住の指導者を活用するなど、学校・家庭・地域の連携を図りながら行った。また、子育てに関する相談窓口となる子育て支援コーディネーターの存在や役割も徐々にではあるが保護者等に理解されてきている。

(今後の課題と対応方向)

保育園・子育て支援センター・学校において、親子で家庭教育講座等に参加する機会は重要であり、各施設において保護者のニーズにできるだけ応じた講座を実施している。各施設や学校では、今後もこの事業を活用して講座等の実施を考えているので、予算の確保に努めなければならない。また、子育てを取り巻く環境の変化や複雑多岐にわたる子育てに関する相談に対し、子育て支援コーディネーターの役割が期待されていたが、人材と予算の確保ができず、平成 25 年度を最後に廃止することとした。

(2) 次代を担う青少年の育成

次代を担う青少年の育成のため、多様な学習機会や交流事業を提供するとともに、自主的独創的な

学習活動を奨励し、高い識見と豊かな創造性を備える青少年の育成に努める。

①児童交流事業(平成・南部藩寺子屋交流事業) (事業明細番号2(2)①)

南部藩ゆかりの遠野市、八戸市の児童とともに遠野市での体験交流活動や当町での受入れ交流活動を通して、意欲的に他校や他市の児童と交流を深め仲間づくりしようとする態度を養い、「ふるさと」の良さに気付き、誇りと愛着を持つようとする意識の向上を図ることを目的として行った。

遠野市・八戸市児童との様々な体験活動を通して、どの児童も自ら積極的に他市の児童と関わろうとする態度が見られ、交流の楽しさを実感することができた。また、自分の町や他市の歴史等にも興味をもち、ふるさとに対する関心を更に高めるきっかけとなった。

(今後の課題と対応方向)

平成元年に児童交流事業が始まり 25 回目を迎えた。岩手県遠野市との交流は意義のあるものであるが、保護者・学校からの協力が得られにくいなど、参加条件や対象学年も含め事業自体の継続について検討した結果、平成 26 年度からは、町単独で実施する、ふるさとの良さを学ぶ事業として「ふるさと学びあい推進事業」として再構築する。

②小学生学習発表会 (事業明細番号2(2)②)

町内の小学生が各学校で学習したことの成果を持ち寄り、大勢の前で互いに発表しあい、各校の発表に関して感想交流を行った。

(今後の課題と対応方向)

学習発表の場を児童へ与えることは効果が大きいと思われるが、学校側は負担が大きいこと等から開催に積極的ではなく、また、一般市民の来場者も少ない。さらには、「中部上北小学校音楽交歓会」という類似事業があることから、平成 25 年度を最後に廃止することとした。

③文化芸術鑑賞事業 (事業明細番号2(2)③)

豊かな人間性を育むことを目的として、小学校では、演劇、音楽鑑賞、保育園・幼稚園では人形劇鑑賞等、子どもたちの成長に合った鑑賞を行った。

(今後の課題と対応方向)

子どもにとって有意義な事業であり、さらなる鑑賞内容の充実に取り組む。なお、幼稚園・保育園については、本事業を継続するが、小学校については、各学校の特色を生かすため、学務課の「学校おもいやり事業」へ移行する。

(3) 地域を支える人材の育成

地域の教育力を支えるために、PTA活動を中心としながら地域の教育力の向上のため、多様な学習機会の提供をはじめ、さまざまな支援事業などを行い、自主的独創的な活動を奨励する。

①地域の教育力による学校支援活動推進事業 (事業明細番号2(3)①)

地域住民が、学校を支援する活動を通じて、学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子育てをする体制をつくり、地域の教育力向上を図ることに努めた。

学校と地域コーディネーターの信頼関係が確立し、どの学校でも円滑に活動が取り組まれ、一定の成果を上げることができた。学校の負担減に関しては、とかく手が回らない「図書整備・環境」に関して効果があり、どの学校も充実した図書環境を構築・維持することができた。また、読み聞かせの継続もなされ、その他ミシン・水泳・スキー指導においては個別指導がしっかりとなされ、児童の学習成果を高めることにつながった。ボランティアについても、拡大・定着が進み、充実感をもちながら活動する協力者が増加した。

(今後の課題と対応方法)

平成 17 年度から事業を継続して実施したことにより、学校と地域ボランティアの方々との連携が図られるようになったため当事業を完了し、今後はさらに学力向上や特色ある教育活動を推進するため、平成 26 年度から各学校で自由に運用できるよう補助金交付することとし、学務課に予算計上した。

②放課後子ども教室推進事業（事業明細番号 2(3)②)

子どもたちの安全管理を図る安全管理員を全小学校区に、放課後対策事業の総合的な調整役を担う地域コーディネーターを七戸・天間林各地区にそれぞれ配置し、子どもの放課後対策事業の運営方法等を検討する運営委員会を設置した。

教育委員会部局（生涯学習課）と福祉部局（社会生活課）と連携し、学習支援や遊びを通しての異学年交流や様々な体験活動等、子どもの放課後対策として効果的な事業である。また、地域の住民や指導者を活用することで地域との連携も図られた。

(今後の課題と対応方向)

地域コーディネーター及び安全管理員の人件費について、町は総額の 1/3 を負担し、国と県が 2/3 を補助金として負担しているが、補助金額の縮小のため自主財源の割合が増加している。また、現在は子ども教室を児童館、学童保育クラブと連携して開催しているが、町では平成 26 年度より順次、児童福祉施設の建設及び民間への管理委託を計画しているため、子ども教室の開催場所、運営方法等について検討していかなければならない。

(4) 社会教育推進のための基盤整備

①社会教育団体支援の充実（事業明細番号 2(4)①)

社会教育団体等の育成を図るため、子ども会育成連絡協議会・単位子ども会相互の連携とジュニアリーダーの育成に努めた。

子ども会育成連絡協議会協議会の事務局は生涯学習課職員が務めており、通帳の管理を行っている。平日日中の活動を除き、概ね自立的な活動ができているが特定の役員への負担が大きい。また、少子化により単位子ども会の活動が低迷している。

(今後の課題と対応方向)

少子高齢化社会や地方分権化、価値観の多様化に伴い、社会教育研修の必要性がさらに求められていることから、研修内容のさらなる充実を考えていかなければならない。

各種事業運営について特定の役員への負担が大きいことから、イベント等への参加者・協力者の育成が必要である。また、少子化により単位子ども会の活動が停滞しているため、更なる助言・サポートを行う。

②青少年育成七戸町民会議（事業明細番号2(4)②)

子どもの安全・安心を守る地域力の向上を図り、犯罪を寄せ付けない連携した地域社会を目指すとともに、地域全体で子どもを見守り・育てる意識や気運の醸成を図ることを目的に、町内小・中学校、高校にてあいさつ運動の実施、及び会員、町民を対象とした青少年育成者研修会を実施した。

(今後の課題と対応方向)

青少年を取り巻く環境（ネット社会・少子化等）が変化する中で、育成者のニーズに合った研修内容を企画・立案する必要がある。また、その内容や情報を町民会議会員のみならず、町民と共有出来る環境づくりが課題である。

(5) 芸術文化活動の充実

芸術文化団体及びサークル等の自主的な活動を奨励し、その伝承・創造を促進するための支援に努める。また町立美術館指定管理者制度を利用して経費の効率化に取り組んでいる。

①町立美術館の指定管理委託事業（事業明細番号3(1)①)

美術館等の管理運営にあたって、自らの創意工夫を活かし、美術館等の入館者に対するサービスの向上及び管理経費の縮減、町民芸術文化の一層の増進を図るため、平成23年度から平成27年度の5ヶ年間、公益法人鷹山宇一記念美術振興会へ委託を行っており、その目的達成のため、指定管理者団体と協議、意見交換を行なった。

(今後の課題と対応方向)

平成13年度に45千人の入館者が平成25年度には8千人という実績から、これまでとは視点を変えた新たな取り組みが不可欠であり、豊かな感性をもって、新しい価値の創造を担う芸術文化拠点としての美術館運営に、一層の自助努力が必要とされる。

②芸術文化推進事業（事業明細番号3(1)②)

地域の芸術文化による教育普及活動のさらなる充実を図るため専門的知識・技術を有する職員を育成、配置し、アーツなワークショップ（体験講座）、LOVE しちのへ「まちかど美術館」の企画運営等を行った。

(今後の課題と対応方向)

新幹線駅前に町立美術館を有するという全国的にも稀でユニークな町づくりを推進する本事業は、

未来を担う子どもたちの豊かな心を育む事業として期待されたが、事業を維持継続する人材及び予算の確保ができず、平成 25 年度を最後に廃止となった。

(6) 文化財の保護・保存・活用の充実

町内に存在する有形・無形の文化財等の保護・保存・活用を見通しながら、その環境の整備に努める。

①世界文化遺産登録に向けた取り組み（事業明細番号 3(2)①）

世界文化遺産の登録に向けて、各構成資産の町村で負担金を出し合いながら登録推薦書作成事業の負担金の支出をした。また 4 道県共通パンフレット作成事業の負担金 9 千円を支出して、リーフレットの作成を行いニツ森貝塚の周知徹底に努めた。

(今後の課題と対応方向)

世界文化遺産登録に向けて、平成 20 年度から本格的な専門家会議などが幾度となく開催されてきた。その中で縄文遺跡が果たして世界遺産となるのかということも議論として出ている。また日本国内に縄文遺跡が数多くあるが、なぜ北海道・北東北地方だけなのかと言われたときにはどうするのか、などの意見もある。現在構成資産が 15 遺跡であるが、調査の不備なものや、説明のつかないものは振り分けるように文化庁の特別委員会からも指摘を受けているので、今後の推移を見守ることとなる。

②ニツ森貝塚史跡公園管理業務委託（事業明細番号 3(2)②）

地域住民による保存・整備活動を行うことにより、史跡保存への理解や協力関係の構築が図られた。また、町の貴重な観光資源として活用されるとともに、町内小中学校における社会科見学の場として活用されるなど文化財への理解を一層深められた。

(今後の課題と対応方向)

現在の予算規模では委託団体による除草作業がきめ細やかに行き届かず、必要最低限の除草作業（3 人 × 10 日程度）を職員が行っている状態が数年続いている。今後職員の減少が見込まれること、また観光地としてより一層の活用方法を考えるのであれば、きめ細やかな管理が重要であることから、予算の確保や管理体制の見直し等の検討が必要である。

(7) 伝統芸能・工芸技術等の継承

郷土に伝わる伝統芸能・工芸技術等の保存・継承を奨励し、それに相応しい環境の整備に努める。

①七戸町民俗芸能保存協議会への支援（事業明細番号 3(3)①）

無形民俗文化財活動の後継者の育成に対する支援として、旧七戸町と旧天間林村それぞれ組織されていた民俗芸能保存協議会を合併して今日に至ってきている。このことから、各種イベントや祭りなどの出演団体を決定する際には、協議会として決定できる組織づくりに努めた。

また、ビデオテープに録画されている伝統芸能をデジタル化し保存した。

(今後の課題と対応方向)

後継者育成が一番の課題であるが、少子高齢化、趣味や娯楽の多様化により、郷土芸能への興味関心は低く、その存続が危ぶまれている。今後、子ども会との連携、放課後子ども教室との連携を実施する等子どもへのアプローチが必要であると考えられる。

(8) 文化交流センター施設の整備と活用の充実

七戸町文化交流センター施設の整備をすすめ活用の充実に努める。

①文化交流センター施設の整備と活用（事業明細番号3(4)①)

文化交流センターの2階部分は歴史民俗資料館のように、当町に残る文化財資料の保存と整備を行っており、展示はしていないが、町内小中学生の見学に供している。また体育館はスポーツ少年団などの体力増進に供している。さらに地域の方々のイベントである運動会や郷土芸能発表大会などにも利用されている。

(今後の課題と対応方向)

文化交流センターは学校の統廃合によって、廃校となった校舎の活用のために歴史民俗資料館、児童館、体育施設の3つの機能を持たせて設置された。しかし現実的には校舎は歴史民俗資料館としての機能しか残されておらず、体育館については貸館となり、管理者を頼んで鍵の開け閉めをしていただいている状況である。地域の文化交流の場として活用される方策を再検討していく必要がある。

スポーツ振興課の事業評価と今後の課題

(目標)

潤いと活力の基盤である健康保持・増進に必要なスポーツ活動、町民相互の連携による活気ある地域づくりを促進するスポーツの交流、夢や感動を与える競技者・団体の育成など、生涯スポーツ社会の実現に向けた環境の整備を推進する。

(取組の概要)

町民が、健やかで活力に満ちた生活の実現を目指すとともに、健康の維持増進・体力の向上に必要なスポーツ活動及び夢や感動を与える競技者・団体の育成等を通じて生涯スポーツ社会の実現に向けた環境づくりの推進に努めた。

(1) 生涯にわたるスポーツライフの実現

心身両面にわたる健康の維持増進と体力の向上を図るとともに、町民1人1人のスポーツの普及・奨励に努める。

①七戸町ジュニアスキースクール（事業明細番号4(1)①）

スキーの基本練習を通じ、技術の向上とスキーの楽しさを味あわせるとともに、健康及び体力の増進を図ることを目的に、1月から2月に4回のスキー教室を実施した。

(今後の課題と対応方向)

この事業は、町スキークラブの協力を得て行っている事業であり、小学1年生～6年生を対象に行い、63名の参加者があった。継続していくことにより、スキー未経験者を減らし、冬季間におけるスポーツ振興につなげる必要があることから事業を継続していきたい。

また、今後はスノーボード教室の開催なども検討していきたい。

②町民スポーツ交流会（事業明細番号4(1)②）

七戸町民スポーツレクリエーション祭（第1回スポーツギネスチャレンジ in 七戸）

町民スポーツレクリエーション活動の場を提供するとともに七戸独自のギネス記録にチャレンジすることで、スポーツ活動への参加意欲を促す。また、スポーツを通じて健康保持、体力増進及び相互の交流を図ることを目的とし、H25年度に初めて実施した。

競技種目：全7種目（スリッパ飛ばし・5人6脚走・軽スポーツリレー・30m背面競争・スピードガンコンテスト・万歩計レース・大声コンテスト）

参加者：15団体約280名

(今後の課題と対応方向)

例年のスポーツ交流会（11月：ペタンク競技・1月：綱引き競技）を廃止し、町内会や分館等広く町民にスポーツレクリエーションの場を提供できるよう上記の内容に変更した。

参加者の意見を聞きながら、さらに多くの町民が参加できるよう改善しながら継続したい。

③七戸町体育協会加盟各部によるスポーツ大会（事業明細番号 4(1)③）

体育協会所属団体による、広く町民を対象としたスポーツ教室及び大会の開催に対し支援をすることで、生涯にわたるスポーツライフの実現を実践できている。

（今後の課題と対応方向）

体育協会所属団体が、それぞれに事業を運営し実施している。今後もさらに継続できるよう推進していきたい。

（2）競技者の育成を図る環境づくり

競技者の競技力向上を図るとともに、トップレベルの競技者の育成に努める。

①スポーツ少年団支援事業（事業明細番号 4(2)④）

スポーツ少年団の普及と育成及び活動の活性化を図り、青少年の健全な育成に資することを目的に七戸町スポーツ少年団（単位団 18 団）への活動費の補助を実施した。

また、平成 24 年度から子どもスポーツ振興事業費補助金要綱を設置し、町民の健康の維持・増進および体力・競技力の向上、更には次代を担う子供たちへのスポーツの普及と健全育成を図るため、町内で子どものスポーツ活動を行う団体に対し、補助金を交付している。

（今後の課題と対応方向）

地域型少年団への完全移行に伴い、指導者の確保や指導者への謝礼・交通費などの問題に対し、子どもスポーツ振興事業費補助金を交付し、スポーツ少年団活動の支援を実施しているが、種々の問題に対応していきたい。

②ジュニア育成事業ベースボールスクール（事業明細番号 4(2)⑥）

平成 25 年度は、七戸町野球協会の主催事業（町共催）として実施した。元埼玉西武ライオンズの投手コーチ橋本武広氏、現役プロ野球選手・スタッフ 4 名を迎えて、七戸町と東北町の小・中学生を対象に開催した。

（今後の課題と対応方向）

平成 8 年から始まったこの事業は、プロ野球選手から直接指導を受けることで、子どもへの影響は大きなものがあり、競技力の向上につながる。今後もこの事業を通し、トップレベルの競技者を育成するため、継続していきたい。

（3）スポーツ振興の体制整備

生涯にわたるスポーツライフの実現を目指し、スポーツに親しみ競技力を向上させる体制整備に努める。

①スポーツ推進委員の研修（事業明細番号4(3)①）

平成24年度は、青森県体育指導委員中央研修会ほか各種研修に参加した。

主管事業として町民スポーツ交流会の開催や体力測定の実施のほか、スポーツ少年団との共催事業としてドッチビーを開催、また健康マラソンへ大会の協力を行った。

（今後の課題と対応方向）

スポーツ推進委員は、町民に対してスポーツの実技指導や助言、軽スポーツ等の普及など多くの役割があるが、その役割を果たせていない部分もあるため、スポーツ推進委員で構成しているスポーツ推進委員協議会で、スポーツの普及や実践課題を検討していくことが重要である。

七戸中央公民館事業評価と今後の課題

(目標)

町民が生きがいをもって充実した生活を希求し、生涯にわたる主体的な学習を通して高い識見と豊かな創造性を培い、身に付けた知識・技能を社会のなかで活かすような「誠実で意欲」のある人づくりを目指す社会教育を推進する。

(取組の概要)

地域住民の学習活動の拠点としての機能の充実を図るとともに、社会教育団体や学習サークル等の活動する場の提供と支援に努めた。

(1) 公民館等の充実及び活用の促進

①公民館運営審議会設置事業（事業明細番号5(1)①）

公民館と地域連携の進め方、その他公民館の年間事業計画や各種事業の評価等、公民館事業や運営について意見を述べたり助言を行うため、七戸地区、天間林地区各5名を公民館運営審議会委員に委嘱した。

(今後の課題と対応)

公民館運営審議会委員から、公民館運営について意見や公民館の事業評価を得ることは、公民館の課題を捉え、町民の意見を適切に反映し、改善を図ることにより、効果的に運営することができることから継続が必要である。

②中央公民館（施設）事業（事業明細番号5(1)②）

社会教育施設としての利用を円滑にするため、文化協会単会、学習サークル、その他一般申込者の要望を調整し、対応している。

(今後の課題と対応)

住民ニーズと効果的な利用法・啓発方法を考慮し、利用率の向上に努めなければならない。また、施設・設備について、定期的な保守点検を行い、利便性の高い施設・設備に努めなければならない。

③中央公民館分館事業（事業明細番号5(1)③）

分館の地域性、独自性をもって、地域住民のニーズに沿った事業を実践することにより、地域コミュニティをより充実させている。また、分館長会議を開催し、分館における問題を出し合い、連携を図ることができた。

(今後の課題と対応)

分館は、地域性を活かした事業を実行するように努めているとともに、分館間での情報共有の機

会を設け、意見を交換している。今後は、情報共有に基づき地域課題を見つけ、それに重点を置いた事業を展開することが望まれる。

④中央公民館講座開設事業（事業明細番号5(1)④）

平成23年度から3講座を変更したが、その申込者数は3倍、延べ実施人数は11.9倍に増加した。これは、幼児体操教室を、一般募集ではなく出前講座として実施し、回数を増やしたため、申込人数を確保できたことが要因である。その他の9講座は、前年度より微増となった。また、各年齢層を対象者とした講座をそれぞれ実施し、参加者も増加していることから、前年度と同様に有効性が確保されている。

（今後の課題と対応）

今後も、対象者、有効性、公平性等をより一層見極め、町民のニーズを考慮した講座を継続しなければならない。

また、講座をきっかけとした自主運営団体を奨励し、助言・支援に努めていく。

⑤寿大学開設事業（事業明細番号5(1)⑤）

高齢者が健やかで生きがいのある人生を送り、社会参加への学習機会を促進するため、「健康・技芸・一般教養・スポーツ」等の講座を実施した。

特に町外研修は、「十和田市現代美術館」を解説つきで研修出来たことは、好評であった。

（今後の課題と対応）

寿大学入学者は新入生が増加し、健康で楽しく積極的に学習に取り組んでいた。

また、公立上北視聴覚ライブラリー、青森県消費生活センター、天間林地区グラウンドゴルフ協会、健康福祉課と連携を図り、学習内容を充実させコスト削減に努め、研修・交流できたことも大きな成果であった。

特に、関係機関との連携による研修は、寸劇等を交え学習しやすく盛況を収めた。

幅広い年代（60代～80代）の方が入学するので、アンケート調査を実施したり、意見や要望を取り入れ、さらに施設、設備環境に配慮し、効果的に事業が運営できるように努める必要がある。

⑥成人式開催事業（事業明細番号5(1)⑥）

町の将来を担う新成人の門出を祝うとともに、成人としての自覚を促し、さらなる成長を期するため、成人式を行った。

（今後の課題と対応）

式典は中央公民館で静粛かつ厳粛に行われ、新成人たちは恩師や家族、関係者に祝福を受けていた。

また、式典を見学する家族等のため、会場後方に席を設けたり、家族や友人どうしでスナップ写真を撮る場所や時間を設けたことは、大変好評であった。

今後も式典だけの開催の方向で検討している。

(2) 社会教育団体や学習サークル等の活動への支援

①七戸町文化協会育成事業（事業明細番号5(2)①）

各種文化団体を統括する七戸町文化協会は重要であり、当該協会を有効的に継続するためには、財政面、ソフト面で支援が必要である。当該協会の必要性、妥当性、優先性は妥当であると評価できるが、効率性については、前年度の事業実績を精査のうえ、コスト削減の余地があるものと評価される。

(今後の課題と対応)

町の文化振興に対する必要性は大きいことから、継続して支援しなければならない。今後は、効率性に重点を置き、コスト削減に向けて当該協会に対し、指導・支援しなければならない。

また、協会の自立を視野に入れた指導・支援も継続的に行っていく。

②七戸町連合婦人会育成事業（事業明細番号5(2)②）

明るく豊かな地域づくり活動を推進するため、各種研修会や行事への参加、芸能発表会の開催など婦人の社会参画に努めた。

さらに、地域の小学校や集会所等において、草取りボランティア活動やエコ活動、地域一人暮らし高齢者に声かけ運動を実施した。

(今後の課題と対応)

新規加入者が少なく、組織の後継者の確保が難しい現状である。

地域に根ざした活動を積極的に行い新規会員の増員を図る必要がある。

また、厳しい財政環境のもと、補助金の適正な執行が求められてきており、事業内容の精査や効果について評価、検討が必要となっているが、今後も婦人の地域づくり活動の位置付け、あり方について考えた場合、その事業実施に必要な予算を確保することが必要である。

③中央公民館だより発行事業（事業明細番号5(2)③）

「中央公民館だより」は、啓発記事を掲載すると同様に、中央公民館講座等の参加申込用紙となっており、町と町民のコミュニケーションにおいて有効な媒体であると評価できる。

(今後の課題と対応)

今後も継続するとともに、町広報、町ホームページ等、新たな媒体の活用を検討する。その際、現状の評価が低下せず、コスト削減できる方法を選択しなければならない。

④しちのへオータムフェスタ 2013 開設事業（舞台部門）（事業明細番号5(2)④）

しちのへオータムフェスタ 2013 の実施にあたり、中央公民館は、舞台部門の主管として中央公園屋内スポーツセンターの舞台部門会場の指導・運営を行った。

文化協会団体、幼児から高校生、福祉施設、公民館講座等、日頃の成果を発表する場を提供し、円滑な運営に努めた。

(今後の課題と対応)

今年度は、はじめて展示部門と舞台部門が同一会場での開催となった。

舞台部門への参加団体は、計画的に取り組んで成果を発表しているが、町民の関心が低く来場者が少ない。

今後は、日頃の学習や研鑽の成果をより多くの町民に披露し、生涯学習の推進を図るために、各機関や団体と打合せを密にし、連絡調整する必要がある。

○図書館の方針と重点

(取組の概要)

地域住民の資料や情報センターとしての役割を果たすとともに、ボランティア団体等の活動の支援や利用者のニーズに対応した環境整備と情報提供に努めた。

(1) 図書資料の整備充実と利用の促進

①中央公民館図書室事業（事業明細番号6(1)①）

図書室の利用者のニーズに対応した資料提供ができるように、蔵書のバランスを考慮し、一般図書・児童図書を収集整備した。

また、地域資料の収集整備や七戸町関連の新聞記事をスクラップし、利用の促進に努めた。

貸出・予約・リクエストサービス等の充実に努め、県内の公共図書館とのネットワークを活用し、利用者と本を結びつけるための図書室サービスに努めたり、充実した図書室サービスの周知を図るため「図書室だより」を発行している。

(今後の課題と対応)

図書購入費を有効に活用し、町民のニーズに対応しながら継続して収集整備をしていく必要がある。

また、館内を利用しやすいように環境整備を行うとともに、町民に広報や公民館だより、図書室だよりを活用し、図書室をPRする必要がある。

(2) 読書活動の推進

①子どもの読書活動推進事業（事業明細番号6(2)①）

子どもたちが本にふれあう機会として、おはなし会開催や絵本の読み聞かせ、本の紹介等を行い、おはなしや本の楽しさを伝えるよう努めた。

また、天間林地区の保育園・小学校・中学校への巡回配本や、各種団体への貸出等を行った。

(今後の課題と対応)

子どもたちが読書に親しみ、感受性豊かに成長できるよう、読み聞かせボランティアと連携し、おはなし会の開催や絵本の読み聞かせ、学校への巡回配本等に継続して取り組む必要がある。

②ボランティア活動の育成支援事業（事業明細番号6(2)②）

ボランティア団体おはなしの会「ゆりかご」の会員を読み手に、幼児から高齢者まで幅広い年齢を対象におはなし会を開催したほか、小学校で朝の読み聞かせ、保育園での絵本の読み聞かせ事業も実施した。

また、ボランティア活動の育成のため、各種研修会等への参加を促進した。

（今後の課題と対応）

ボランティアの育成については、継続して各種研修会等の情報提供をし、会員のさらなるスキルアップを高めるように支援して行く必要がある。

また、ボランティアの会員が小学校、保育園での本の読み聞かせや各種研修会に参加するなど、積極的な活動により各学校との関わりが良い方向に進んでいると思われるので、継続する必要がある。

七戸南公民館の事業評価と今後の課題

(目標)

地域住民の学習活動の拠点として機能の充実を図るとともに、社会教育団体や学習サークル等の活動する場の提供と支援に努める。

(取組の概要)

町民一人一人が、生きがいのある充実した生活の実現を目指すとともに、潤いと彩りあふれる田園文化都市の形成に向けて、生涯にわたる自己啓発・向上と社会参加を実現する社会教育の推進に努めた。

(1) 公民館等の充実及び活用の促進

- ア 多様な学習プログラムの開発と学習資料の整備
- イ 自己啓発・向上に資する講座・研修会等の開催
- ウ 各分野のリーダーの計画的・体系的な育成

①子ども英会話教室事業（事業明細番号5(1)⑥）

国際交流の一環として、外国人講師の生きた英語に触れ「読むこと、書くこと、聞くこと、話すこと」を中心に楽しく英語に親しんでもらい、国際感覚豊かな心を育むことを目的として開催した。

(今後の課題と対応方向)

運営はサークルでの活動が可能。民間の教室も増えていることから、現在の方法は見直しが必要。また英語教育のニーズは高いので、今後行政として三沢基地との交流事業に取り組み英語を使う環境、異文化に触れる機会を増やす企画が必要だと思う。

②柏葉大学開設事業（事業明細番号5(1)⑦）

高齢者の生きがい、健康、教養、趣味を軸とした各種講座を開催し、社会教育活動の参加機会を促進するための講座を10講座実施した。対象者は60歳以上の男女としている。

(今後の課題と対応方向)

ほとんどが女性であるため、男性集客に工夫を凝らしていきたい。

③南公民館講座開設事業（事業明細番号5(1)⑧）

住民の知識や教養を高めるための生涯学習講座を全9講座開催した。

(今後の課題と対応方向)

いずれの講座も満足度は高く、内容は充実しているといえる。今後も町民のニーズに合わせ、さらに展開していきたい。

④七戸町民大学開設事業（事業明細番号5(1)⑩）

男女共同参画・歴史・まちづくり・健康等、時代に沿ったテーマの講演会を2講座開催した。

（今後の課題と対応方向）

講座はすべて自主団体との共同開催で実施している。コスト削減に関しては県事業の利用などにより効率的に図られている。今後も「町民主体」の講演会事業としての方向性を強め、公民館はそのバックアップにまわるような運営方法を確立するよう努めたい。

（2）社会教育団体や学習サークル等の活動への支援

ア 学習活動を支援する指導者・コーディネーター等の紹介・斡旋

イ 学習活動に必要な施設設備等の有効活動及び情報機器等による学習情報の提供

ウ 各種発表会・展示会等、文化創造活動の機会と場の提供

①しちのへオータムフェスタ 2013 開設事業（事業明細番号5(2)⑤）

南公民館は文化部門の事務局及び展示部門を担当している。中央公園屋内スポーツセンターにおいて、幼児から高校・一般、文化協会団体、学習サークル、福祉施設、公民館講座等、日頃の成果を発表する場を提供し、円滑な運営に努めた。

（今後の課題と対応方向）

作品を町民みなさまに披露できる場を持てることにより、さらに意欲的に学習に取り組むことが出来ると思われる。事業の公平性という面から見ると、会場を1年ごとに替えることも必要。

七戸中央図書館の事業評価と今後の課題

(目標)

町民が生きがいをもって充実した生活を希求し、生涯にわたる主体的な学習を通して高い識見と豊かな創造性を培い、身につけた知識・技能を社会のなかで活かすような「誠実で意欲」のある人づくりを目指す社会教育を推進します。

(取組の概要)

町民一人一人が、生きがいのある充実した生活の実現を目指すとともに、潤いと彩りあふれる田園文化都市の形成に向けて、生涯にわたる自己啓発・向上と社会参加を実現する社会教育の推進に努めた。

(1) 図書館資料の整備充実と利用の促進

ア 利用者のニーズに対応した図書、環境整備と情報提供

①図書館サービス事業（事業明細番号6(1)②）

高度化・多様化する利用者のニーズに対応した資料提供ができるよう、蔵書のバランスを考慮し、一般図書・児童図書を収集整備した。また、地域資料の収集整備や七戸町関連の新聞記事を分野ごとにスクラップし、利用の促進に努めた。

貸出・予約・リクエストサービス等の充実に努め、県内外の公共図書館とのネットワークを活用し、利用者と本を結びつけるべく図書館サービスに努めた。図書館の利用促進を図るため、「図書館だより」を発行した。

(今後の課題と対応)

利用者のニーズに対応しながらも、限られた図書購入費を有効に活用し、継続して収集整備をしていく必要がある。

狭小なスペースの中でも快適に利用できるような環境整備を行うとともに、広報、図書館だより、町ホームページで、図書館サービスなどについて引き続きPRする必要がある。

②図書館協議会の運営（事業明細番号6(1)③）

年間を通して実施している図書館サービスについて、委員よりさまざまな意見を述べてもらい、次年度の事業に反映させている。

(今後の課題と対応)

委員からの意見により、図書館サービス等についてさまざまな改善を行っており、今後も引き続き意見の吸い上げ、反映に努めていく必要がある。

(2) 読書活動の推進

ア 子どもの読書活動の支援と推進

イ ブックスタート事業の推進

ウ ボランティア活動の育成と支援

①子どもの読書活動推進事業（事業明細番号6(2)③）

「七戸町子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもたちと本を結び付けるために、読み聞かせや本の紹介を行い、本やおはなしの楽しさを伝えるよう努めた。休日を利用して「おはなし会」を開催したり、館内においておすすめの絵本や児童書の展示・貸出しを行うなど、子どもたちが本に親しめる環境づくりに努めた。

また、平成21年度より開始したブックスタート事業については、保健センターで実施される6ヶ月児健診を利用し、絵本をとおして親子のつながりを深めてほしいという趣旨から継続実施している。

学校巡回図書事業については、七戸地区の小学校2校へ毎月配本を行った。県の事業を利用し、保育園・幼稚園へ家庭での読み聞かせ用絵本、中学校1校へ「朝の読書」用児童書のセットの配本も行った。

また、ボランティア活動の場を提供するため、「おはなし会」を開催した。また、ボランティア活動の育成のため、各種研修会等への参加を促進した。

(今後の課題と対応)

「七戸町子ども読書活動推進計画」をもとに、子どもたちが読書に親しみ感受性豊かに成長できるよう、継続しておはなし会の開催や児童書の充実に取り組む必要がある。また、子どもたちが本を手にとりやすい環境づくりに引き続き努める。

ブックスタート事業については、乳幼児期からの読書習慣の定着を図る意味でも、継続して取り組む必要がある。

ボランティアの育成については、継続して各種研修会等の情報提供や参加促進を呼びかけていく。また、読み聞かせ等の依頼が多くなってきたため、新規会員の確保が必要である。

②生涯学習の推進・支援事業（事業明細番号6(2)④）

町民への学習機会の提供を目的に、図書館講座を開講した。また、読書団体等への研究資料の提供やイベント協力を行った。

(今後の課題と対応)

郷土作品や古典作品を取り上げ、毎年参加者からは好評を得ているため、継続して実施していく。また、その他の集会行事についても内容を検討していく。

V 平成25年度事業分 教育委員会の事務事業に対する意見

七戸町教育委員会の事務事業評価の取組は、平成21年度の平成20年度事業評価からスタートし、今回が6回目の事業評価となるが、回を重ねるごとに、その内容や様式を改善しながら充実を図ってきた。

平成24年度事業評価は、自分たちがさまざまな事業に参加した体験を基に、個々の事業を評価したが、平成25年度も同様に個々の事業の気付いた点を評価することとした。

- 1 今年度から学校給食費給付金交付事業を始めたが、これは実質的に給食費が無料となるもので、保護者の経済的負担軽減の一助となっている。

しかし、年間5千万円以上の事業費は、町の財政規模から見ても決して小さい金額ではない。一定の期間が経過して時点で、子育て支援に効果があるかどうかについての費用対効果等を含めた検証をお願いしたい。

- 2 町立美術館の指定管理委託事業については、年々事業費が増加しているが、その反面、入館者数は減少傾向にある。美術館の管理運営方法等について、抜本的な見直し・検討をお願いしたい。

- 3 スポーツ振興課事業について、類似した事業、例えばスポーツ少年団支援補助事業と子どもスポーツ振興事業等があり、分かりづらいので、事業の整理統合の検討をお願いしたい。

- 4 教育事務に関する点検及び評価報告書（本書）について、各担当者が細かく実績を報告・評価していることについては評価できるが、ボリュームがありすぎると思われる。

例えば、事業評価シートは教育委員会のバックデータとして管理するなど、簡略化の工夫をお願いしたい。

平成26年11月12日

七戸町教育評価審議会委員

松林 和子（七戸神明宮宮司）

金澤 護（甲地郵便局長）

VI 平成25年度事業分 施策別主要事業一覧

施策分野	重点項目	事業細目番号	事業名	継続	充実	廃止	縮小	統合	完了	見直し検討	その他	
1	学校教育の方針と重点	(1) 確かな学力の育成	1 (1) ① 少人数学級編制事業 (あおもりっ子育みプラン21)	●								
		(2) 豊かな学力の育成	(2) ① 教育奨励賞	●								
			② 教育福祉援助基金給付事業	●								
			③ 奨学資金貸付事業	●								
		(3) 健やかな身体の育成	(3) ① 学校検診事業	●								
			② 七戸町学校保健会補助事業	●								
			③ 七戸町児童生徒対外遠征費補助事業	●								
			④ 要保護及び準要保護児童生徒就学援助事業	●								
			⑤ 学校給食費給付金交付事業	●								
		(4) 特別支援教育の充実	(4) ① 特別支援教育支援員配置事業	●	●							
② 学校生活相談員配置事業	●		●									
③ 就学指導委員会	●											
(5) 学校の自主性・自立性の確立	(5) ① 学校評議員設置事業	●										
	② 七戸町教育振興会補助事業	●										
(8) 国際化に対応する教育の推進	(8) ① 外国語指導助手(ALT)派遣事業	●	●									
	② 青森県国際交流員派遣事業	●										
(9) 情報化に対応する教育の推進	(9) ① コンテンツ配信事業	●										
(10) 研修の充実	(10) ① ふるさと研修事業	●	●									
2	社会教育の重点	(1) 一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	2 (1) ① 家庭教育支援総合推進事業			●						
		(2) 次代を担う青少年の育成	(2) ① 南部藩児童交流事業			●						
			② 小学生学習発表会			●						
			③ 文化芸術鑑賞事業	●			●					
(3) 地域を支える人材の育成	(3) ① 地域の教育力による学校支援活動推進事業							●				
(4) 学校・家庭・地域の連携による社会全体の教育力の向上	(4) ① 七戸町子ども会育成連絡協議会補助金	●										
	② 青少年育成七戸町民会議									●		
3	文化財保護と芸術文化の方針と重点	(1) 芸術文化活動の充実	3 (1) ① 町立美術館の指定管理委託事業								●	
		(2) 文化財の保護・保存・活用	(2) ① 世界文化遺産登録に向けた取組事業		●							
			② ニッ森貝塚史跡公園管理業務委託事業		●							
		(3) 伝統芸能・工芸技術等の継承	(3) ① 七戸町郷土芸能保存会活動事業補助金	●								
(4) 文化交流センター施設の整備活用の充実	(4) ① 文化交流センターの活用の充実								●			
4	社会体育の方針と重点	(1) 生涯にわたるスポーツライフの実現	(1) ① 七戸町ジュニアスキースクール	●								
			② 町民スポーツ交流会	●							●	
			③ 体育協会加盟各部によるスポーツ大会	●								
		(2) 競技者の育成を図る環境づくり	(2) ① 町長杯野球・ソフトボール大会兼七戸地区防犯野球・ソフトボール大会									●
			② 青森県民駅伝競走大会	●								
			③ 体育協会支援補助事業	●								
			④ スポーツ少年団支援補助事業	●								
			⑤ 子どもスポーツ振興事業	●								
		(3) スポーツ振興の体制整備	(3) ⑥ ジュニア育成事業ベースボールスクール	●								
			⑦ 体育協会大会派遣事業(郡総合・北奥羽・県民体育大会)	●								●
5	公民館の方針と重点	(1) 公民館等の充実及び活用の促進	(1) ① 公民館運営審議員設置事業	●								
			② 中央公民館(施設)事業	●								
			③ 中央公民館分館事業			●						
			④ 中央公民館講座開設事業	●	●							
			⑤ 寿大学開設事業	●	●							
			⑥ 七戸こども英会話教室開設事業	●	●						●	
			⑦ 柏葉大学開設事業	●							●	
			⑧ 七戸南公民館講座開設事業	●	●							
			⑨ 七戸南公民館分館事業	●	●							
			⑩ 七戸町民大学開設事業	●	●							
⑪ 成人式開催事業	●											
(2) 社会教育団体や学習サークル等の活動への支援	(2) ① 文化協会の育成支援事業	●										
	② 七戸町連合婦人会育成事業	●										
	③ 中央公民館だより発行事業	●	●									
	④ しちのへオータムフェスタ2013開設事業(舞台部門)									●		
		⑤ しちのへオータムフェスタ2013開設事業	●	●						●		
6	図書館の方針と重点	(1) 図書資料の整備充実と利用の促進	(1) ① 中央公民館図書室事業	●								
			② 図書館サービス事業	●	●							
			③ 図書館協議会の運営	●								
		(2) 読書活動の推進	(2) ① 子どもの読書活動推進事業(中央公民館)	●								
	② ボランティア活動の育成支援事業	●										
	③ 子どもの読書活動推進事業(中央図書館)	●										
	④ 生涯学習の推進・支援事業	●										

事業評価シート

事業細目番号	1(1)①	担当課	学務課	担当者	田村 教男
事業名	少人数学級編制事業(あおりっ子育みプラン21)				

事業費	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	決算額(千円)			
財源内訳	国・県支出金			
	その他			
	町債			
	一般財源			

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	少人数学級編成を実現するため、希望する学校へ非常勤講師を派遣して、児童生徒1人1人に対して決め細かな学習指導を行うことによって、学力の向上を図る。	<input type="checkbox"/> 内容	この事業は、青森県教育委員会の事業で、町の負担はない。授業の指導のみではなく、学級指導や給食指導も行う。
------	-----------------------------	---	-----------------------------	--

事業効果	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	項目(単位)			
配置校・人数		七小1人、城南1人	七小1人	七小2人、西小1人

事業評価	評価項目		評価	
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)	B
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	B	
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	A	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	C (25%)	A
優先性が高い	低い			
評価の説明	本事業は、小中学校を対象とした青森県教育委員会の事業である。非常勤講師を配置することによって、他の教員の事務量が減った分子供たちへの指導が充実する効果が期待できる。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	本事業は青森県教育委員会の事業であり、町の財政的負担はない。教職員の事務量が増大してきている中で、児童へのきめ細かな学習指導を行う上で非常に有効な事業であり、今後も県に対して要望・申請していきたい。
----------	--	---

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(2)①	担当課	学務課	担当者	小又 一城
事業名	教育奨励賞				

事業費	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	
	決算額(千円)			413	417	400
財源内訳	国・県支出金					
	その他					
	町債					
	一般財源			413	417	400

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	園児・児童生徒及び教職員で、文化活動・スポーツ活動の振興に寄与した者及び善行著しい者を表彰することを目的とする。	学校長及びスポーツ少年団の長から表彰基準に該当する者を推薦していただき、教育委員会が審査し、各賞を決定する。表彰式は2月下旬に柏葉館・中央公民館(交互)において実施。

事業効果	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	項目(単位)			
指導者賞		1名(天間東小教諭)	1名(天間東小教諭)	該当者なし
最優秀賞		個人の部1名	個人の部2名	個人の部2名
優秀賞		個人の部25名、団体の部1団体	個人の部21名、団体の部3団体	個人の部27名、団体の部2団体
優良賞		個人の部75名、団体の部10団体	個人の部68名、団体の部11団体	個人の部82名、団体の部11団体

		評 価 項 目	評 価
事業評価		①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
		②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
		③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A
		④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A
		⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
		⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A
評価の説明	児童・生徒等の文化活動、スポーツ活動の競技力が向上しているとともに、受賞が励みになっている。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	現状と表彰基準が整合しないものもあることから、規則等を見直す必要がある。また、大会規模の判断が難しいため、審議委員会等の設置についても検討が必要である。(26年度検討予定)
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	1(2)②	担当課	学務課	担当者	田村 教男
事業名	教育福祉援助基金給付事業				

事業費	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
	決算額(千円)	1,500	1,500	1,500	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源	1,500	1,500	1,500		

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	高等学校・高等専門学校へ進学し、勉学に意欲的に取り組み、他の模範となる生徒に対し、七戸町民として自覚と誇りを持ち学業に励んでもらうために、入学祝金として奨学金を授与する。	出願資格は、七戸町民で、七戸町内の中学校第3学年に在学し、願書提出翌年度に高等学校・高等専門学校へ進学する者で、学業優秀な者(成績評定が3.5以上)であること。※平成24年度から、「若しくは経済的な理由で就学が困難と認められる者でなければならぬ。」の文言をしおりから削除した。

事業効果	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	項目(単位)			
	給付金額	50,000円	50,000円	50,000円
	給付者数	30人	30人	30人

事業評価	評価項目		評価	
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A	
評価の説明	<p>本事業は保護者から大変喜ばれている。昨年度出願資格の見直しが必要であるとの指摘を受けたことから、運営委員会にて話し合いを持った。その結果、平成24年度から、「若しくは経済的な理由で就学が困難と認められる者でなければならぬ。」の文言をしおりから削除した。あくまで成績優秀な者に対して給付し、同成績の者の甲乙を付けるために、経済状況を加味する形で運用することに決定した。</p>			

今後の取組課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	基金運営委員会で、奨学給付の当初は成績優秀な生徒に対し給付するということから始まったはずなので、出願資格を再検討すべきと話が合ったことから、平成24年度に見直しを図った。見直し後の運用方法が現状に適しているかどうか見極めながら次年度以降運用していくべきであると考えている。
---------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	1(2)③	担当課	学務課	担当者	田村 教男
事業名	奨学資金貸付事業				

事業費	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
	決算額(千円)	1,561	1,568	1,576	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
	一般財源	1,561	1,568	1,576	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	七戸町に住所を有する者の子弟で、優れた学生及び生徒であつて経済的理由により就学に困難なものに対して資金を貸し付けして人材育成を図る。	貸付を受けることができる者は、学校教育法第53条に規定する学部、学科及び課程に在学する者、又は法第82条の3に規定する専修学校の専門課程に在学し、父母又は後見人等が七戸町に1年以上住所を有する者、外国の大学に在学する者。 貸付額は、大学に在学する者は4万円以内、外国の大学に在学する者は5万円以内、大学又は専門学校に進学する者は入学一時金として50万円を限度に貸し付ける。

事業効果	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	項目(単位)			
	貸付額(円)	7,280,000	7,740,000	17,840,000
	貸し付け者実人数	11	13	29
	新規採用者	4	5	17
	滞納額(円)	2,003,000	2,067,000	2,135,000

事業評価		評価項目	評価
		①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
		②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
		③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 効果は上がっている B 効果は上がっていない	A
		④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A
		⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
		⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A
	評価の説明	就学機会推進のため、事業の必要性は高い。 また、教育資金を金融機関から融資を受けた保護者に対して支払利子の一部を補給する事業も関連して行っている。	

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	貸付希望者に対して、広報等を利用して周知しているが、もっと詳しい情報の提供が必要である。 滞納者については、本人、保証人へ連絡をとり、滞納整理を進めていく必要がある。
----------	---	--

事業評価シート

事業細目番号	1(3)①	担当課	学務課	担当者	上原子 洋子
事業名	学校検診事業				

事業費	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
	決算額(千円)	1,953	1,669	1,557	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
町債					
一般財源	1,953	1,609	1,557		

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	学校保健安全法に基づき、健康な学校生活を送れるように検診を実施し、疾病の予防や健康づくりの意識を高める。	<input type="checkbox"/> 内容	<ul style="list-style-type: none"> ・目の疾病および異常の有無 ・耳鼻咽喉頭疾患の異常の有無 ・心臓の疾病及び異常の有無(小1・4年生、中1年生) ・尿・貧血検査 ・寄生虫卵の有無等(1年生～3年生)
------	-----------------------------	--	-----------------------------	--

事業効果	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
	項目(単位)	(人)			
	眼科検診		1,268	646	670
	耳鼻科検診		1,264	1,187	1,135
	尿検査		1,374	1,189	1,128
心電図検査		398	393	343	

事業評価	評価項目	評価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A
評価の説明	学校保健安全法に基づく事業であり、適正、効率的に実施している。	

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	眼科検診は眼科医の不足等により1・3・5年生の検診である。他の学年は問診票での対応(問診票で異常のある児童・生徒は検診を実施)である。眼科医や近隣市町村との協議が必要であるが全員検診を受けられるような体制ができればよいと思う。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	1(3)②	担当課	学務課	担当者	上原子 洋子
事業名	七戸町学校保健会補助事業				

事業費	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度
	決算額(千円)			200	200
財源内訳	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源			200	200

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	七戸町内の幼稚園・保育園・小学校及び七戸高校・七戸養護学校の児童・生徒の健康増進を図る。また、養護教諭、保健主事の資質向上を図る。	<input type="checkbox"/> 内容	①学校保健衛生の施策に対する協力 ②保健衛生思想の普及啓発 ③学校保健に関する調査研究・事業計画および実践 ④学校関係者の指導および研修 ⑤学校保健施設の助成 ⑥学校保健資材の斡旋 ⑦家庭における保健思想の啓発 ⑧学校給食の実施・促進及び管理指導
------	-----------------------------	---	-----------------------------	---

事業効果	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度
	項目(単位)				
	全国学校保健主事・学校保健研究大会研修	静岡県「学校現場における発達障がいをもつ子どもたちへの対応」	山形市「生きる力の中心にあるもの」	秋田市「青少年の健康危険行動と防止教育」	
	七戸町学校保健研究大会	東小「すこやか健康会議」～おやつのことを知ろう～	西小「視力低下を予防しよう」～2年間の実践をおして～	七中「性に関する指導について」～総合的な学習の時間を通して～	
	保健主事研修会	手軽にできるリンパマッサージ健康法	アロマで作るリラックススペース	ハーブを知ろう	

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 効果は上がっている B 効果は上がっていない		A
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A
評価の説明	全国大会研修・保健主事研修等に積極的に参加し、健康管理の仕方や健康教育のあり方等に取り組んでいる。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	児童生徒が直面する様々な心身の健康問題に適切に対処し、解決していくためには学校、家庭、地域が連携して取り組んでいく必要があるため、学校保健会は今後も継続していく必要がある。
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	1(3)③	担当課	学務課	担当者	小又 一城
事業名	七戸町児童生徒対外遠征費補助事業				

事業費	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度
	決算額(千円)			1,934	2,190
財源内訳	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源			1,934	2,190

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	小・中学校における部活動の推進及び競技力の向上並びに児童生徒の安全確保を図るとともに、保護者等の経済的負担を軽減する。	県大会以上の大会へ参加した七戸中学校7団体、天間館中学校5団体、榎林中学校1団体の延べ24件に交通費や宿泊費、参加料等を補助した。補助した人数は述べて生徒221名、引率者29名、コーチ16名となっており、全国大会へ1団体、東北大会へ4団体が出場した。

事業効果	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度
	項目(単位)				
小学校対象件数			0件	0件	0件
小学校補助金額			0円	0円	0円
中学校対象件数			21件	29件	24件
中学校補助金額			1,933,099円	2,189,226円	2,125,935円

事業評価	評価項目		評価
	事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	
②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A	
評価の説明	本事業は、児童生徒の体育活動及び文化活動を推進するとともに、学校出発から到着まで、そして開催地での交通手段まで確保することから、児童生徒の安全確保を図ることができる。また、県大会以上となると宿泊が必要となる大会もあり、さらに東北大会、全国大会ともなると数日の宿泊が必要となることから、保護者及び指導者等の経済的負担を軽減することができる。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	以前は旧天間林村の要項に準じて交付していたが、平成23年度に新たに交付要綱を作成し運用した。また、24年度に指摘していた運用する上で現状に即していない部分については25年度で修正を行ったが、引き続き運用の見極めを行いたい。保護者及び学校から大変喜ばれている事業で、今後も継続していきたい。
----------	---	--

事業評価シート

事業細目番号	1(3)④	担当課	学務課	担当者	佐々木 智恵子
事業名	要保護及び準要保護児童生徒就学援助事業				

事業費	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	
	決算額(千円)			14,868	15,582	5,606
財源内訳	国・県支出金			39	128	145
	その他					
	町債					
	一般財源			14,829	15,454	5,461

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	経済的理由によって就学困難と認められる児童生徒の保護者に対し、学用品費等を援助することにより、義務教育の円滑な実施を図ることを目的とする。	<input type="checkbox"/> 内容	経済的に困窮し、就学困難な児童生徒の保護者から就学援助申請があった場合、七戸町就学援助費支給要綱に基づき世帯の経済状況を審査し、認定する。援助対象費目は、学用品費、通学用品費、新入学児童生徒用品費、校外活動費及び修学旅行費。 なお、要保護児童生徒に関しては、修学旅行費を支給する。
------	-----------------------------	---	-----------------------------	---

事業効果	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	項目(単位)			
援助費支給額実績(円)		14,867,557	15,581,160	5,606,445
準要保護支給対象者		189	175	153
要保護支給対象者		10	13	4

事業評価	評価項目		評価	
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)	A
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A	
	(Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	A	
	(Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	C (25%)	A
	優先性が高い		低い	
評価の説明	経済的困窮世帯が多く、就学援助の必要性は極めて高い。 25年度から町の給食費補助事業が開始されたことにより、給食費は本事業の補助対象外となった。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	社会経済状況を反映して、困窮世帯が増加している。 25年度は児童扶養手当受給者の情報等を担当課と連携を図りながら進めていった。
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	1(3)⑤	担当課	学務課	担当者	上原子 洋子
事業名	学校給食費給付金交付事業				

事業 費		年 度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
		決算額(千円)			53,991	
	財 源 内 訳		国・県支出金			
			その他			
			町 債			
		一般財源			53,991	

事 業 概 要	<input type="checkbox"/> 目的	小・中学校の学校給食費用を保護者に支給し、経済的負担を軽減し、少子化対策及び子育て支援の充実に努めるため。	<input type="checkbox"/> 内容	町内外小・中学校に在籍する児童生徒の保護者で、町内に住所を有する者を対象とし、学校給食費に相当する額を給付。生活保護受給者、町外に住所のある区域外就学者の保護者は対象外。
------------------	-----------------------------	---	-----------------------------	---

事業 効果		年 度 (単位:人)	平成23年度	平成24年度	平成25年度
		項目			
		小学校(町内4校、町外1校)			695
		中学校(町内3校、町外4校)			440

事 業 評 価	評 価 項 目					評 価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)					A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他					A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 効果は上がっている B 効果は上がっていない					A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない					A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他					A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い					A
	評 価 の 説 明	町外小中学校在籍児童生徒の保護者へ周知を徹底し、申請漏れの無いようにした。				

今 後 の 取 組 課 題	<input checked="checked" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	保護者の経済的負担を軽減し、少子化対策が直面する様々な心身の健康問題に適切に対処し、解決していくためには学校、家庭、地域が連携して取り組んでいく必要があるため、今後も継続していく必要がある。
---------------------------------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	1(4)①	担当課	学務課	担当者	佐々木 智恵子
事業名	特別支援教育支援員配置事業				

事業費	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	決算額(千円)	8,503	12,954	15,931
財源内訳	国・県支出金			
	その他			
	町債			
	一般財源	8,503	12,954	15,931

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	小・中学校の通常学級に在籍する学習障害、注意欠陥多動性障害、情緒障害など、特別な支援を必要とする児童生徒の学習指導、安全確保、生活指導等の支援を行うことを目的に、各小・中学校に特別支援教育支援員を配置する。	学校長の指揮監督のもと、学級担任と連携し、 ①基本的な生活習慣確率のための日常生活上の介助 ②発達障害の児童生徒に対する学習支援 ③学習活動、教室間移動等における介助 ④児童生徒の健康・安全関係 ⑤校外行事や運動会等、各種行事における介助等の支援を行う。

事業効果	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	項目(単位)			
配置校・支援員数		小学校4校・4名	小学校4校・4名	小学校4校・8名
		中学校3校・3名	中学校3校・5名	中学校3校・5名

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	A
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	C (25%)
評価の説明	教育上特別な支援を必要とする児童生徒が増加傾向にあるため、障害に応じた適切な教育を実施する上で本事業は重要となっている。平成25年度から、学校の要望により小学校に4名増員した。		

今後の取組・課題 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	本事業の重要性は今後さらに増していくと思われることから、適切で効果的な支援を実践していくために、専門知識や具体的な支援技術を習得する研修の場を提供する必要がある。このことから、七戸町教育振興会や中部上北広域事業組合教育委員会等での研修会を利用して、支援員の資質向上に努めていく。
---	---

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(4)②	担当課	学務課	担当者	佐々木 智恵子
事業名	学校生活相談員配置事業				

事業費	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	決算額(千円)		941	1,447
財源内訳	国・県支出金			
	その他			
	町債			
	一般財源	941	1,447	2,456

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	生徒の悩みや不安などを解消するとともに、いじめや不登校等の未然防止、早期発見、早期対応を教職員と協力しながら、不登校生徒や別室当校生徒、保護者への支援を行うことを目的とする。	学校長の指揮監督のもと、生徒の悩みや不安解消のため、個別にカウンセリングを実施したり、いじめや不登校生徒の指導を行うため、次の支援を行う。 ①生徒の話し相手・悩み相談 ②不登校生徒への支援 ③家庭・地域と学校の連携支援 ④その他学校の教育相談の支援 等

事業効果	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	項目(単位)			
配置校・支援員数		七戸中学校・1名	七戸中学校・1名	七戸中学校・2名
		天間館中学校・1名	天間館中学校・1名	天間館中学校・2名
			榎林中学校・1名	榎林中学校・1名

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A
	(Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 効果は上がっている	B 効果は上がっていない	A
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	A
	(Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	A
	優先性が高い	低い	
評価の説明	生徒の不登校やいじめ等問題行動の状況は、依然として憂慮すべき状況にあることから、本事業の必要性は高まっている。学校生活相談員は、退職教員等を委嘱しているが、生徒が悩み等を気軽に話せ、ストレスを和らげることができるよう、第三者的な存在として活動している。平成25年度から2名増員した。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	町内の全中学校に配置したが、深刻さを増す問題行動等に対応するため、報酬単価の増額と勤務時間数の増を測っていく必要がある。小学校への配置も検討していきたい。
----------	---	---

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	1(5)①	担当課	学務課	担当者	千葉 愛華
事業名	学校評議員設置事業				

事業費	財源内訳	平成23年度		平成24年度		平成25年度	
		決算額(千円)	350	331	339		
	国・県支出金						
	その他						
	町債						
	一般財源	350	331	339			

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	校長が保護者や地域の方々の意見を聞き、地域や社会に開かれた学校づくりを一層推進し、学校が家庭や地域と連携しながら、特色のある教育活動を推進する。	校長の求めに応じて、「①学校の教育目標、教育方針及び計画に関すること。②教育活動の実施に関すること。③学校と地域との連携の進め方に関すること。④学校経営に関すること」について意見をのべる。各学校に3名ずつ配置している。開催回数(費用弁償の伴う)については3回以内とする。

事業効果	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	項目(単位)			
小学校開催数		七小2・城南2・西小2・東小3	七小2・城南2・西小2・東2	七小3・城南2・西小2・東小3
中学校開催数		七中2・天中3・榎中2	七中2・天中2・榎中2	七中3・天中2・榎中2

事業評価	評価項目		評価	
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)	A
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 効果は上がっている	B 効果は上がっていない	A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	A	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	C (25%)	A
評価の説明	学校評議員から、学校運営について意見、評価を得ることにより、学校の課題をより明確にとらえることができる。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	形式的な設置にならないよう、学校評議員の意見を参考に、さらにひらかれた学校づくりがすすめられなければならない。また、評議員の選定については地域、学校との関わりのある適任者を見つけることが困難なため、再任者が多くなっている。幅広い見地から意見を求めるため、適任者の確保が課題である。
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	1(5)②	担当課	学務課	担当者	千葉 愛華
事業名	七戸町教育振興会補助事業				

事業費	財源内訳	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
		決算額(千円)	2,427	2,388	2,459
	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源	2,427	2,388	2,459	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	幼児児童生徒の教育文化及び体育の振興と教職員の資質向上に係る事業を行い、教育の振興を図る。	○幼児・児童・生徒の教育、文化及び体育の振興事業 理科工作標本展、スポーツ交流会、小・幼・保育園交流会等 ○教職員の資質向上事業 ふるさと研修、教育講演会、研究活動等

事業効果	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	項目(単位)			
理科工作標本展出品数		178	148	177
スポーツ交流会		ドッジビー大会	ドッジビー大会	ドッジビー大会
教育講演会		「ライフセット～人間力をつけ、成長し心を癒す道～」	発達障がいの子どもから学ぶ、私たちの指導法の課題	発達障がいの子どもへの具体的指導の実際について
先進校等研修(幼・保育園)実施		7校・7(園)	7校・7(園)	7校・7(園)

事業評価	評価項目		評価	
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)	A
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	A	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	C (25%)	A
評価の説明	七戸町の教育の重点目標達成のために、研修委員会では、教職員の教育観の確立を図るとともに指導過程や指導技術の改善向上を目指す研究、研修に取り組んだ。また、各校(園)でそれぞれ先進校・研究会へ参加し、研修をすすめた。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	本町の保育園から高等学校まで、14の教育機関が縦、横の連携を充実させ、その活動を通して教育水準を高めていく組織であることから、今後も継続すべきと考える。事業内容と予算の見直しが必要と思われる。
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	1(8)①	担当課	学務課	担当者	小又 一城
事業名	外国語指導助手(ALT)派遣事業				

事業費	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
	決算額(千円)	8,242	7,991	7,755	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源	8,242	7,991	7,755		

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	外国語教育の充実を図るとともに国際交流の推進を図り、国際理解教育の推進を図ることを目的とする。	JETプログラム(語学指導を行う外国青年招致事業)を活用し、2人のALTを町内の幼・小・中学校、保育園に派遣し、外国語教育の充実を図っている。 ①学校における外国語授業の補助 ⑤外国語教材の作成の補助及びスピーチコンテスト等への協力 ②学校における外国語活動の補助 ⑥地域における国際交流活動への協力 ③特別活動及び課外活動への協力 ④外国語担当教員の研修補助

事業効果	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	項目(単位)	幼稚園1、保育園6	幼稚園1、保育園6	幼稚園1、保育園6
	ALT派遣校等	小学校4	小学校4	小学校4
		中学校3	中学校3	中学校3

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A
評価の説明	幼児や児童・生徒に生きた外国語に接する機会を提供し、外国語教育の充実と国際理解教育の推進を図った。また、中部上北広域事業組合教育委員会所属のALTを七戸町内小・中学校へ派遣した。このほか、他町村へ、事業への協力としてALTを派遣している。			

今後の取組・課題	<input type="checkbox"/> 継続 <input checked="checked" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	小学校外国語教育の教科化へ向けて計画が策定されており、小学校中学年への対象拡大も検討されているため、当町としても英語教育の充実も視野に入れ、質の高い民間への委託等検討する必要があると考える。
----------	---	---

事業評価シート

事業細目番号	1(10)①	担当課	学務課	担当者	田村 教男
事業名	ふるさと研修事業				

事業費	年 度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
		決算額(千円)	64	47
財源内訳	国・県支出金			
	その他	39	22	29
	町 債			
	一般財源	25	25	25

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	<p>青森県教育委員会が定める初任者研修実施要領に基づき、七戸町教育委員会研修として、七戸町教職員初任者及び赴任者を対象に七戸町の教育課題や文化、歴史等について理解を深めることを目的に開催した。</p> <p>七戸町発展のあゆみや産業、文化について研修した。今年度は、文化交流センター、見町観音堂、ひげ塚公園、史跡七戸城跡、銀南木、鷹山宇一記念美術館、中野の庚申碑と大イチョウ、天間館一里塚、天間館神社(こうもり神社)、花松神社、史跡二ツ森貝塚、蒼前一里塚、千曳神社、早川用水功労者碑等を研修、見学した。</p>	

事業効果	年 度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	項目(単位)	参加者:		
	講師	7人	5人	5人
	教職員	29人	14人	20人
	教育委員会	5人	4人	4人
	合計	41人	23人	29人

事業評価	評 価 項 目		評 価
	事業	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	
事業	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A
事業	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A
事業	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A
	評価の説明	七戸町へ赴任してきた教職員を対象にした研修で、町内の文化財等を実際に見学できたことは、教育課題等の理解を深めるうえで大きな成果であった。また、各学校の枠を超えて一緒に研修、交流できたことも大きな成果であった。	

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	研修場所が広範囲にわたるため、施設間等の移動に時間を要し、十分な研修、見学時間がとれなかった。今後は、本研修が児童生徒の学習活動に役立つよう、講師及び参加者から意見を聞き、内容を充実していきたい。
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	2(2)①	担当課	生涯学習課	担当者	二宮 渉
事業名	南部藩児童交流事業				

事業費	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	決算額(千円)		933	891
財源内訳	国・県支出金			
	その他			
	町債			
	一般財源	933	891	1,085

事業概要	□ 目的	町内の子どもたちが、南部藩ゆかりの遠野市・八戸市の子どもたちと共に、遠野市での宿泊研修や七戸町での受け入れ研修の中で行われる様々な体験活動とおとして、「ふるさと」の良さを感じ、意欲的に交流を深めようとする態度の育成を図る。	□ 内容	(1)事前研修会(7月20日) (2)結団式(7月25日) (3)遠野市訪問(7月29日～31日) ①遠野市長表敬訪問 ②遠野市・八戸市児童との体験交流活動及び町内児童間交流 (4)平成南部藩子どもサミット(山梨県 8月1日～2日 2名) (5)遠野市使節団受け入れ(8月4日) (6)事後研修会・活動報告会(8月5日)
------	------	---	------	--

事業効果	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	項目(単位)			
参加児童数(人)		19	13	23

		評価項目	評価
事業評価		①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	B
		②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)そ： 廃止も含めて見直しが必要	B (ウ)
		③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A
		④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	B
		⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	B (ア) (イ) (エ)
		⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	C
	評価の説明	歴史的に縁の深い都市を知ることにより、郷土七戸を見直す良い機会を作っていること、「平成・南部藩」との関わりからも、自治体間の交流としては長期継続が求められる面は否めない。しかし実際に活動する児童や送り出す保護者・学校からの協力面が得にくい点(送迎・引率)等様々な課題を抱えており、今後町が積極的に継続していくかどうか検討が必要である。「仲間作り」や「ふるさとへの誇りと愛着の育み」という事業目的は参加児童ほぼ全員達成されている。	

今後の取組・課題	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input checked="" type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引き続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	平成25年度まで本事業を継続してきたが、参加希望児童数の減少や、各市町の取り組み意識に対する温度差等の課題があり、当初の目的である自治体間交流は達成されていることから、遠野市・八戸市との南部藩児童交流事業は平成25年度を持って終了することとした。平成26年度からは、ふるさとの良さを学ぶ事業として「ふるさと学びあい推進事業」として再構築する。
----------	---	---

事業評価シート

事業細目番号	2(2)②	担当課	生涯学習課	担当者	千葉 壮輔
事業名	小学生学習発表会				

事業費	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
	決算額(千円)	11	12	12	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
	一般財源	11	12	12	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	町内各小学校の児童が授業で取り組んだことの成果を発表し合い、それらに対する質疑応答や意見交流をしたり、感想を寄せあったりする場を提供することで、参加児童が表現活動の充実感を味わいながら幅を広げ、今後の学習や生活への興味関心を高める。	1 町内各小学校からの発表 (1)城南小学校 「駒おどりを受けつごう」 (2)天間東小学校 「縄文アクセサリーを作るには」 (3)天間西小学校 「エネルギーと住みよい町づくり」 (4)七戸小学校 「音で結ぼう心の絆」 2 各校の発表に関する感想交流タイム

事業効果	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	項目(単位)			
	参加児童数(人)	136	172	122

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			B
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			B (イ)
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			C	
評価の説明	発表の場を児童へ与えることの効果は大きい、学校側の負担の大きいこと等から、4小学校全ての校長が参加に積極的ではない。また、町民や保護者への参加も呼び掛けているが、来場者は少ないので、町民ニーズは低い。			

今後の取組・課題	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input checked="" type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他	一定の効果は得られるものの、教員、児童の負担が大きく、学力向上のための学習時間の確保が難しくなっていることや、「中部上北小学校音楽交歓会」という類似事業があることから、廃止を決定した。
----------	---	--

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	2(2)③	担当課	生涯学習課	担当者	千葉 壮輔
事業名	文化芸術鑑賞事業				

事業費	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
	決算額(千円)	823	837	620	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源	823	837	620		

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	子どもたちが普段、触れることのない様々な芸術を鑑賞することで、子どもたちの豊かな人間性を育み、町の文化・芸術活動の振興を図ることを目的に、各種文化・芸術事業を実施する。	<input type="checkbox"/> 内容	文化・芸術に寄与する事業の開催または芸術鑑賞 小学校：演劇鑑賞、音楽鑑賞 保育園・幼稚園：人形劇鑑賞
------	-----------------------------	--	-----------------------------	--

事業効果	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
	項目(単位)	鑑賞人数	1133人	1129人	1025人

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		B (ア)
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		B	
評価の説明	普段見る機会の少ない、生の舞台を鑑賞することは子どもたちにとって良い経験である。小学校では、演劇、音楽鑑賞、保育園・幼稚園では人形劇鑑賞等、子どもたちの成長に合った鑑賞を行うことにより、豊かな人間性を育み、また鑑賞のマナーを学ぶ等、非常に有意義な事業になっている。また、学校教育の一環として保護者負担をなくし、契約も町で行うことになったため学校の負担軽減につながった。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input checked="" type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	子どもにとって有意義な事業であるため、さらなる鑑賞内容の充実に取り組む。 なお、幼稚園・保育園については本事業を継続するが、小学校については、各学校の特色を生かすことなどから、学務課の「七戸町学校おもしろい事業」へ移行した。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	2(3)①	担当課	生涯学習課	担当者	今泉 今日子
事業名	地域の教育力による学校支援活動推進事業				

事業費	年度	平成23年度		平成24年度		平成25年度	
		決算額(千円)	2,624	2,730	1,552		
財源内訳	国・県支出金	1,417	1,269	720			
	その他						
	町債						
	一般財源	1,207	1,461	832			

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	地域全体で、学校教育を支援する体制づくりを推進することにより、教員の子どもと向き合う時間の増加、住民等の学習成果の活用機会の拡充及び地域の教育力の活性化を図る。	<input type="checkbox"/> 内容	1 学校支援センターの設置 (七戸小・城南小・天間西小・七戸中・天間館中) 2 地域コーディネーターの配置 (七戸小2・城南小2・天間西小1・七戸中1・天間館中1) 3 学校支援ボランティア活動の実施 (学習支援・環境支援)
------	-----------------------------	--	-----------------------------	---

事業効果	項目(単位)	平成23年度		平成24年度		平成25年度	
		学校支援センター設置数	6	6	5		
	地域コーディネーター配置数	7	8	7			
	ボランティア参加者実人数(人)	1007(延べ)	1018(延べ)	872(延べ)			

事業評価	評価項目		評価	
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)	A
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	B (ウ)	
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	B (カ)	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	C (25%)	A
評価の説明	学校と地域コーディネーターの信頼関係が確立し、どの学校でも円滑に活動が取り組まれ、一定の成果を上げることができた。学校の負担減に関しては、とかく手が回らない「図書整備・環境」に関して威力を發揮し、どの学校も充実した図書環境を構築・維持することができた。また、読み聞かせの継続もなされ、その他シシ・水泳・スキー指導においては個別指導がしっかりとなされ、児童の学習成果を高めることにつながった。ボランティアに関しても七戸地域・天間林地域間に差はあるが、拡大・定着が進み、充実感をもちながら活動に協力して下さる方が増加した。			

今後の取組・課題	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	平成17年度から事業を継続して実施したことにより、学校と地域ボランティアの方々との連携が図られるようになったため当事業を完了し、今後はさらに学力向上や特色ある教育活動を推進するために、各学校で自由に運用できるよう学務課に予算を計上し、補助金を交付することとした。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	2(3)②	担当課	生涯学習課	担当者	今泉 今日子
事業名	放課後子ども教室推進事業				

事業費	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	財源内訳	決算額(千円)	2,307	2,010
国・県支出金		1,538	1,340	1,310
その他				
町債				
一般財源		769	670	729

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	小学校児童を対象とし、放課後や週末・長期休暇等に小学校の余裕教室や児童館等を利用して、地域住民の参画を得て、子どもたちの安全で健やかな居場所づくりを推進する。	・子どもたちの安全管理を図る者(安全管理員)を全小学校区に配置。 ・放課後対策事業の総合的な調整役を担う者(地域コーディネーター)を七戸・天間林各地区に配置。 ・子どもの放課後対策事業の運営方法等を検討する運営委員会の設置。

事業効果	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	項目(単位)			
	のべ開催日数	502日	467日	479日
	のべ児童参加者数	24,434人	27,774人	25,122人
	地域コーディネーターの配置	2人	2人	2人
	安全管理員の配置	5人	5人	5人

事業評価	評価項目		評価
事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		B (ウ・エ)
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A
評価の説明	教育委員会部局(生涯学習課)と福祉部局(社会生活課)と連携し、学習支援や遊びを通しての異学年交流や様々な体験活動等、子どもの放課後対策として効果的な事業である。また、地域の住民や指導者を活用することで地域との連携も図られている。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	地域コーディネーター及び安全管理員の人員費について、町は総額の1/3を負担し、国と県が2/3を補助金として負担しているが、補助金額の縮小のため自主財源の割合が増加している。また、現在は子ども教室を児童館、学童保育クラブと連携して開催しているが、町では平成26年度より順次、児童福祉施設の建設及び民間への管理委託を計画しているため、子ども教室の開催場所、運営方法等について検討していかなければならない。
----------	---	--

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	2(4)①	担当課	生涯学習課	担当者	二宮 渉
事業名	七戸町子ども会育成連絡協議会補助金				

事業費	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	決算額(千円)		660	660
財源内訳	国・県支出金			
	その他			
	町債			
	一般財源	660	660	660

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	町内子ども会相互の連絡・連携に努め自主的な活動を育成し、もって子ども会の健全な育成と福祉の推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・単子支援育成事業 ・児童館子どもまつりの開催 ・世話人研修会の開催 ・ドッジビー大会の開催 ・ジュニアリーダーの育成 等

事業効果	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	項目(単位)			
児童館子どもまつりの開催		650人	-	-
世話人研修会の開催		20人	45人	県の研修と併催
ドッジビー大会の開催		389人	300人	213人
初級ジュニアリーダー研修会		67人	12人	43人

事業評価項目		評価
事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A
評価の説明	協議会の事務局を生涯学習課職員が務めており、通帳の管理を行っている。 協議会の事業については、平日日中の活動を除き、概ね自主的な活動ができているが特定の役員への負担が大きい。また、少子化により単位子ども会の活動が低迷している。	

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	事業運営について特定の役員への負担が大きいことから、各種イベントへの参加者・協力者の育成が必要である。また、少子化により単位子ども会の活動が停滞しているため、更なる助言・サポートを行う。
----------	--	---

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	2(4)②	担当課	生涯学習課	担当者	千葉 壮輔
事業名	青少年育成七戸町民会議				

事業費	年度	平成23年度			平成24年度			平成25年度		
		決算額(千円)	158			142			145	
財源内訳	国・県支出金									
	その他									
	町債									
	一般財源	158			142			145		

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	町内の関係諸機関及び団体が相互に緊密な連携と協力体制のもとに、国及び県の施策並びに県民会議の提唱する運動と呼応して、次代を担う心豊かな青少年の育成を図ることを目的とする。	<input type="checkbox"/> 内容	青少年育成七戸町民会議総会 七戸あいさつ運動推進週間の実施 青少年健全育成者研修会の開催
------	-----------------------------	---	-----------------------------	--

事業効果	項目(単位)	年度		
		平成23年度	平成24年度	平成25年度
	総会の開催	1回	1回	1回
	あいさつ運動参加者	280名	526名	468名
	青少年健全育成者研修会	20名	38名	36名

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	
事	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	B
業	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	B (イ)
価	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	B
	評価の説明	平成23年度よりあいさつ運動の事業内容について見直しを図り会員、PTA、児童生徒など、徐々に参加者も増えてきている。また、平成24年度から育成者研修会において、構成団体の連携強化及び青少年の健全育成に関する町民の意識高揚を図ることを目的に、町民会議の構成団体からの事例発表を実施した。今後は町民に対して更なる事業の周知、参加を呼びかけ、住民一人一人が意識を高め、家庭・学校・地域が一体となって、地域ぐるみで協働して青少年健全育成に努める必要がある。	

今後の取組・課題	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input checked="" type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	青少年を取り巻く環境(ネット社会・少子化等)が変化の中で、育成者のニーズに合った研修内容を企画・立案する必要がある。また、その内容や情報を町民会議会員のみならず、町民と共有出来るような環境づくりや取り組みが課題である。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	3(1)①	担当課	生涯学習課	担当者	大沢田慎一
事業名	町立美術館の指定管理委託事業				

事業費	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
	決算額(千円)		17,500	17,500	19,963
	財源内訳				
	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源	17,500	17,500	19,963	

事業概要	□ 目的	□ 内容
	美術館等の管理運営にあたって、自らの創意工夫を活かし、美術館等の入館者に対するサービスの向上及び管理経費の削減を図り、町民芸術文化の一層の増進を図ることを目的とする。	①入館の許可に関すること ②入館料の収受に関すること ③設備及び備品等の維持管理に関すること ④事業計画に基づいた各種事業の運営に関すること ⑤町長のみの権限に属さないその他の管理運営に関する事務

事業効果	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
	項目(単位)				
	入館者数	25,030人	9,944人	8,573人	

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		B
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		B
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		B
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		B
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		B	
評価の説明	全国的にも美術館運営が容易ではない現代において、町民をはじめ町外からの集客にも一躍を担う特別展や体験講座などの自助努力による自主事業には、周囲を真似る事業ではなく、時代のニーズを鑑みつつ町立の鷹山美術館ならではの、新しい視野にたった発想の転換が必要と思われる。資料の収集、保管、活用、施設の管理など基本的なその活動においては、当初の設立理念は今や失われつつあり、今一度その方向性、根本を初心にかえり直す必要に迫られているものと見受けられる。豊かな感性をもってこれをさらに育み、「人を大切にし、人を育てる」生涯学習拠点として、そして、新しい価値の創造を担う芸術文化拠点としての美術館運営に、一層の自助努力が期待される。			

今後の取組・課題	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input checked="" type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()
	平成23年度に基本協定を結び27年度までの5か年の指定管理委託しているが、基本協定の年額1,750千円に対し25年度実績は19,963千円、26年度予算では23,508千円と管理料が増加している。13年度に45千人の入館者が25年度は8千人という実績から、これまでとは視点を変えた新たな取り組みが不可欠である。また美術振興会と指定管理料の使途の線引きで意見が分かれるところもみられるので今後の協議も必要。平成26年に開館20周年を迎えるが、今後の運営形態についても検討しなければならない。

事業評価シート

事業細目番号	3(2)①	担当課	世界遺産対策室	担当者	中嶋 正弥
事業名	世界文化遺産登録に向けた取り組み				

事業費	年度	平成23年度		平成24年度		平成25年度	
		決算額(千円)	307	218	290		
財源内訳	国・県支出金						
	その他						
	町債						
	一般財源	307	218	290			

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	国史跡二ツ森貝塚が世界文化遺産登録の構成資産となったことから、登録にむけて青森県などと連携をとりながら負担金の支出や専門家会議などに出席をして、意見を求められたことや、書類作成に共同して参画している。	<input type="checkbox"/> 内容	世界文化遺産の登録に向けて、各構成資産の町村で負担金を出し合いながら登録推薦書作成事業の負担金の支出をした。また4道県共通ハンディーサイズリーフレット作成事業の負担金9千円を支出して、リーフレットの作成を行い二ツ森貝塚の周知徹底に努めた。
------	-----------------------------	--	-----------------------------	---

事業効果	項目(単位)	年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	A
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	A
評価の説明	世界文化遺産登録に向けて、平成20年度から本格的な専門家会議などが幾度となく開催されてきて。その中で縄文遺跡が果たして世界遺産となるのかということも議論として出ている。また日本国内に縄文遺跡が数多くあるが、なぜ北海道・北東北地方だけなのかと言われたときにはどうするのか、などの意見もある。現在構成資産が15遺跡であるが、調査の不備なものや、説明のつかないものは振り分けるように文化庁の特別委員会からも指摘を受けているので、今後の推移を見守ることとなる。		

今後の取組・課題	<input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	本事業は七戸町だけで決められるものではなく、世界文化遺産の登録に相応しい構成資産ということなので、その推移を見守りながら対応をしていくことになる。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	3(2)②	担当課	世界遺産対策室	担当者	中嶋 正弥
事業名	二ツ森貝塚史跡公園管理業務委託				

事業費	年度	平成23年度		平成24年度		平成25年度	
		決算額(千円)	456	450	456	450	456
財源内訳	国・県支出金						
	その他						
	町債						
	一般財源	456	450	456	450	456	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	二ツ森貝塚史跡公園の保存と整備	公園内の清掃(駐車場・トイレ)、復元堅穴住居の薫蒸、園路等の除草作業、新割り作業等

事業効果	項目(単位)	平成23年度		平成24年度		平成25年度	
		見学者	1,000人	1,000人	1,000人	1,000人	

評価項目		評価
事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 効果は上がっている B 効果は上がっていない	B
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A
評価の説明	地域住民による保存・整備活動を行うことにより、史跡保存への理解や協力関係の構築が図られた。また、町の貴重な観光資源として活用されるとともに、町内小中学校において社会見学の場として活用されるなど文化財への理解を一層深められた。	

今後の取組・課題	<input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	<p>現在の予算規模では委託団体による除草作業がきめ細やかに行き届かず、必要最低限の除草作業(3人×10日程度)を職員が行っている状態が数年続いている。</p> <p>今後職員の減少が見込まれること、また観光地としてより一層の活用方法を考えるのであれば、きめ細やかな管理が重要であることから、予算の確保や管理体制の見直し等の検討が必要。</p>
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	3(3)①	担当課	生涯学習課	担当者	今泉 今日子
事業名	七戸町郷土芸能保存会への支援				

事業費	財源内訳	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
		決算額(千円)	360	330	330
	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源	360	330	330	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	郷土芸能の普及と後継者育成のための支援	<input type="checkbox"/> 内容	七戸町郷土芸能発表会の開催 七戸町各種イベントへの出演
------	-----------------------------	---------------------	-----------------------------	--------------------------------

事業効果	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	項目(単位)	加入団体	12団体	11団体

事業評価	評価項目			評価	
	事	①必要性(町民が必要としていますか)			A
		A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			
	業	②妥当性(町が行うべきですか)			A
		A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			
	評	③有効性(期待された効果は上がっていますか)			B
		A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			
業	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)			A	
	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない				
評	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)			A	
	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他				
業	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)			A	
	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い				
評価の説明	旧正まける日に七戸町郷土芸能発表会を開催したところ、多数の入場者を得ることができた。しかし、少子高齢化などの社会環境の変化によって、郷土芸能の保存と伝承が厳しくなっている状況である。				

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	昨年度は映像記録をDVD化し保存することができたが、人から人への伝承は必須であり、後継者育成が一番の課題であるが、少子高齢化、趣味や娯楽の多様化により、郷土芸能への興味関心は低く、その存続が危ぶまれている。今後、当事業を活用しつつ子ども会との連携、放課後子ども教室との連携を実施する等子どもへのアプローチが必要であると考えられる。
----------	---	---

事業評価シート

事業細目番号	3(4)①	担当課	世界遺産対策室	担当者	中嶋 正弥
事業名	文化交流センターの活用の充実				

		年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
		決算額(千円)		1,204	829	885			
事業費	財源内訳	国・県支出金							
		その他							
		町債							
		一般財源		1,204	829	885			

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	文化交流センターは、歴史民俗資料館と、上川目分館、体育施設からなっている。これらの用途活用を通して、文化の交流を図るというものである。	<input type="checkbox"/> 内容	文化交流センターの2階部分は歴史民俗資料館のように、当町に残る文化財資料の保存と整備を行っており、展示はしていないが、町内小中学生の見学に供している。また体育館はスポーツ少年団などの体力増進に供している。さらに地域の方々のイベントである運動会や郷土芸能発表大会などにも利用されている。
------	-----------------------------	---	-----------------------------	--

事業効果	年度			
	項目(単位)	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	利用者数	245	261	524

評価項目			評価
事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		B
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		B (ウ)
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		B
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		B
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) 優先性が高い B (50%) C (25%) 低い		C
評価の説明	文化交流センターは複合施設として平成17年度から供用を開始した。主なものは児童館施設としての役割、そして歴史民俗資料館としての文化財の保管保存、さらに体育館施設からなっていた。しかし児童館は統合され廃止されてしまった。現在は常勤者もなく平日は鍵がかかれ、町内の小中学生による文化財見学のために年に数回見学団体がある程度である。体育館施設は主に冬場グラウンドなどが使えなくなって時にスポーツ少年団などの練習場として利用されている。文化交流センターの活用や方向性の見直しが必要な時期に来ていると思われる。		

今後の取組・課題	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input checked="" type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他 ()	<p>文化交流センターは学校の統廃合によって、廃校となった校舎の活用のために歴史民俗資料館、児童館、体育施設の3つの機能を持たせて設置された。しかし現実的には校舎は歴史民俗資料館としての機能しか残されておらず、体育館については貸館となり、管理者を頼んで鍵の開け閉めをいただいている状況である。地域の文化交流の場として活用される方策を検討していかなければならないであろう。</p>
----------	---	---

事業評価シート

事業細目番号	4(1)①	担当課	生涯学習課	担当者	八嶋 靖希
事業名	七戸町ジュニアスキースクール				

事業費	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	決算額(千円)		96	96
財源内訳	国・県支出金			
	その他			
	町債			
	一般財源	96	96	96

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	スキーの基本練習を通し、技術の向上とスキーの楽しさを味わせるとともに、健康及び体力の増進を図ることを目的とする。また、参加者が行動をともにすることにより、望ましい人間関係を育みたい。	対象 町内の小学生(1年～6年) 講師 七戸町スキークラブ員 回数 4回 ※スキークラブと協力し、教室参加者はクラブ主催のスキー大会へも参加していただき成果をあげている。

事業効果	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	項目(単位)			
参加者数(延べ人数)		176人	253人	219人

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	B コスト削減の余地はある	A
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) 優先性が高い	B (50%) C (25%) 低い	A
評価の説明	アルピンスキーの講習会として町内在住の小学生1年生から6年生を対象としており、雪国の冬期間のスポーツとして重要である。また、他校の生徒との交流の場でもあり町民のニーズは高い。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	①各校でもスキー教室は行なっているが、機会は少なく継続が必要。
----------	--	---------------------------------

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	4(1)③	担当課	生涯学習課	担当者	附田良亮
事業名	体育協会加盟団体によるスポーツ大会				

事業費	財源内訳	年度		
		23	24	25
	決算額(千円)	3,668	3,569	3,827
	国・県支出金			
	その他	2,318	1,967	2,378
	町債			
	一般財源	1,370	1,602	1,445

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	体協所属団体による教室及び大会開催費に対する支援をすることで、地域スポーツ活動の普及・奨励に努める。 各競技による通常の大会とは別に、広く町民を対象とした生涯わたるスポーツライフの実現を趣旨とする。	体協主催講習会(AED救命講習) 加盟団体主催ナイターリーグ大会(フットサル・バドミントン・バスケット) 加盟団体主催大会(朝野球、壮年スポーツ大会、マラソン大会、ソフトテニス大会、剣道大会、ゲートボール大会、ボウリング大会、グラウンドゴルフ大会、水泳教室、町民登山)

事業効果	年度		
	23	24	25
項目(単位)	1教室・14大会	2教室・13大会	3教室等・13大会
教室・大会数			
参加者数(人)	2,990	2,280	2,772

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	②妥当性(町が行うべきですか)	
事業	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		A
	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A
	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A
	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A
評価の説明	体協所属団体ほぼすべてが、目的に沿った事業を展開できている。		

今後の取組・課題 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	各所属団体の事業の継続と更なる充実を目指し、関係団体に協力する。また、課題等を充分聴取する。
--	--

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	4(2)①	担当課	生涯学習課	担当者	築田 貴徳
事業名	七戸町長杯野球・ソフトボール大会兼七戸地区防犯野球ソフトボール大会				

事業費	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	決算額(千円)		245	258
財源内訳	国・県支出金			
	その他	131	198	153
	町債			
	一般財源	114	60	60

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	七戸町及び東北町管内の小・中学校の野球・ソフトボールの技術の向上と児童生徒の交流を図り相互の連帯意識を高めるとともに、心身の健全育成を図ることを目的として開催するものである。	<input type="checkbox"/> 内容	七戸町・東北町(旧中部上北4ヶ町村)のスポーツ少年団・中学校対抗の野球・ソフトボール大会。中部上北防犯野球・ソフトボール大会の流れであり、夏休み中に開催している。
------	-----------------------------	---	-----------------------------	---

事業効果	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	項目(単位)			
	参加チーム数・小野球	8 チーム	7 チーム	6 チーム
	参加チーム数・小ソフト	6 チーム	5 チーム	4 チーム
	参加チーム数・中野球	6 校	5 校	5 校
	参加チーム数・中ソフト	0 校	4 校	3 校

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	B(ウ)
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	B
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	A
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	B
評価の説明	野球・ソフト以外にも多数の競技種目があり、限定するのは公平さに欠ける。また、各種目とも多数の大会があり、町が主催する必要性も薄れている。大会の継続について関係団体及び町村とも協議し、見直しを検討する。		

今後の取組・課題	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input checked="" type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	各種目とも多数の大会があり、町が主催する必要性も薄れている。大会の継続について関係団体及び町村とも協議し、見直しを検討する。
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	4(2)②	担当課	生涯学習課	担当者	八嶋 靖希
事業名	青森県民駅伝競走大会				

事業費	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	決算額(千円)		860	859
財源内訳	国・県支出金	60	59	60
	その他			
	町債			
	一般財源	800	800	800

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	大会を通じて七戸町民の一体感を高めるとともに、スポーツ(陸上競技)に対する理解と関心を高め、活力ある町づくりとスポーツ振興を目的とする。
	<input type="checkbox"/> 内容	県内全40市町村が参加し、青森市内の8区間を市の部・町の部・村の部でそれぞれ競う。町の部5位、総合12位。 選手・一般男子 7人(一般 5人 大学生 1人 高校生 1人) ・中学生男子 4人 ・女子4人(高校生 2人 中学生 2人)

事業効果	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	項目(単位)			
成績		町の部 8位 総合 17位	町の部 5位 総合 11位	町の部 5位 総合 12位

事業評価	評価項目		評価	
	事	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		A
		②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
	業	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 効果は上がっている B 効果は上がっていない		A
		④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
	評	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A
		⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A
価	評価の説明			
	青森県のスポーツイベントで、町民が一体感を強めることができ、毎年入賞を目指して活動しており、県内トップクラスの選手育成も成されている。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	中学校と協力して、選手層の強化に努める。特に女子の強化が課題。高校生及び社会人の選手候補の情報収集が課題。
----------	---	---

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	4(2)③	担当課	生涯学習課	担当者	附田 良亮
事業名	体育協会支援補助事業				

事業費	年 度		23	24	25
	決 算 額(千円)		2,939	2,144	2,346
	財源内訳	国・県支出金			
		そ の 他			696
		町 債			
一 般 財 源		2,939	2,144	1,650	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	体育協会及び加盟団体への活動支援	体育協会及び加盟団体への活動(組織運営・事業等)に対する支援事業

事業効果	年 度		23	24	25
	項目(単位)				
	体育協会加盟団体数		21団体	21団体	21団体
	体育協会加盟人数		1029人	983人	949人

評 価 項 目			評 価
事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 効果は上がっている B 効果は上がっていない		A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A
評価の説明	スポーツを通じた町の活性化を図るためには、体育協会の力が必要不可欠であり、組織運営上の援助としては最低限補助できている。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	町財政上の問題もあるが、補助額を少しでも上げられるよう努力したい。
----------	---	-----------------------------------

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	4(2)④	担当課	生涯学習課	担当者	築田 貴徳
事業名	スポーツ少年団支援補助事業				

事業費	財源内訳	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
		決算額(千円)	701	701	701
	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源	701	701	701	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	スポーツ少年団の普及と育成及び活動の活性化を図り、青少年の健全な育成に資する。また、町民の健康維持・増進および体力・競技力の向上、更には次世代を担う子供たちへのスポーツの普及と健全育成を図るため、町内で子どものスポーツ活動を行う団体への促進を図るためのものである。	<input type="checkbox"/> 内容	スポーツ少年団 ①加盟単位団(19団)への活動費補助 ②スポーツ少年団・指導者内の交流会 ③募金等の奉仕活動 ④指導者育成のための補助 ⑤冬季練習場所への移動・活発な活動のための補助
------	-----------------------------	--	-----------------------------	--

事業効果	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	項目(単位)			
	単位団・登録者数	16団 310名	18団 276名	19団 371名

事業評価	評価項目			評価
	事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		
②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 効果は上がっている B 効果は上がっていない			A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A	
評価の説明	地域主体のスポーツ少年団が、活動する上での支援は必要であり、評価できる。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	子供たち(小学生)のスポーツの中心は少年団であるので、さらに支援できるようにすべきだが、社会体育の在り方も考慮しなければならない。
----------	--	---

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	4(2)⑤	担当課	生涯学習課	担当者	築田 貴徳
事業名	子どもスポーツ振興事業				

事業費	財源内訳	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
		決算額(千円)	0	1,190	1,340
	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源	0	1,190	1,340	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	スポーツ少年団の普及と育成及び活動の活性化を図り、青少年の健全な育成に資する。また、町民の健康維持・増進および体力・競技力の向上、更には次世代を担う子供たちへのスポーツの普及と健全育成を図るため、町内で子どものスポーツ活動を行う団体への促進を図るためのものである。	<input type="checkbox"/> 内容	スポーツ少年団 ①加盟単位団(19団)への活動費補助 ②スポーツ少年団・指導者内の交流会 ③募金等の奉仕活動 ④指導者育成のための補助 ⑤冬季練習場所への移動・活発な活動のための補助
------	-----------------------------	--	-----------------------------	--

事業効果	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	項目(単位)	16団 310名	18団 276名	19団 371名
	単位団・登録者数			

事業評価	評価項目		評価	
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)	A
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 効果は上がっている	B 効果は上がっていない	A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	A	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	C (25%)	A
評価の説明	地域主体のスポーツ少年団が、活動する上での支援は必要であり、評価できる。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	子供たち(小学生)のスポーツの中心は少年団であるので、さらに支援できるようにすべきだが、社会体育の在り方も考慮しなければならない。
----------	--	---

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	4(2)⑥	担当課	生涯学習課	担当者	附田 良亮
事業名	ジュニア育成事業ベースボールスクール				

事業費	財源内訳	年度		23	24	25
		決算額(千円)		767	359	423
	国・県支出金		427	0	0	
	その他		40	59	123	
	町債					
	一般財源		300	300	300	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	子供たちが一流選手に接する機会をつくり、競技への関心・競技力の向上を図るとともに、地域のスポーツ振興に寄与することを目的とする。	<input type="checkbox"/> 内容	七戸町出身の元プロ野球選手である橋本氏をはじめ現役プロ野球選手を招き、七戸町・東北町のスポーツ少年団・中学校の選手・監督・コーチを対象に、野球教室・大会を開催。
------	-----------------------------	--	-----------------------------	--

事業効果	年度		23	24	25
	項目(単位)				
講師数		5名	5名	5名	
参加チーム数・小野球		7 チーム	7 チーム	5 チーム	
参加チーム数・中野球		4 校	3 校	3 校	

事業評価	評価項目		評価	
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)	A
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 効果は上がっている	B 効果は上がっていない	A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	A	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	C (25%)	A
評価の説明	身近に一流選手と直接ふれあう機会、指導受ける機会は少なく、恵まれた事業であり効果はある。			

今後の取組・課題 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	現在の講師が来てくれる環境が続く限りは、継続が必要である。
--	-------------------------------

事業評価シート

事業細目番号	4(2)⑦	担当課	生涯学習課	担当(記入)者	附田 良亮
事業名	体育協会大会派遣事業(郡総合・北奥羽・県民体育大会)				

事業費	財源内訳	年度	23	24	25
		決算額(千円)	993	1,094	792
	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源	993	1,094	792	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	体育協会及び所属団体が町代表として地区大会並びに上位大会出場機会を支援し、競技力向上と指導者の資質向上を目的とする。	<input type="checkbox"/> 内容	上北郡総合体育大会・北奥羽総合体育大会・青森県民体育大会への参加に伴う費用の一部を補助する。 全国・東北大会出場に伴う経費の一部補助及び選手強化のため施設使用料の一部を補助する。
------	-----------------------------	--	-----------------------------	--

事業効果	年度	23	24	25
	項目(単位)			
	上北郡総合体育大会参加者数	14競技173名出場(4競技優勝/総合第3位)	15競技181名出場(3競技優勝/総合第2位)	15競技187名出場(3競技優勝/総合第4位)
	北奥羽総合体育大会参加者数	中止(久慈市震災により)	7競技56名出場(バドミントン競技優勝)	3競技26名出場
	青森県民体育大会参加者数	12競技153名出場	12競技159名出場(剣道優勝)	9競技102名出場/町の部13位
	全国東北大会出場数	団体(野球・女子サッカー・GB)	団体(野球・女子サッカー・GB)	団体(ゲートボール)

事業評価	評価項目		評価	
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)	A
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	A	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	C (25%)	A
評価の説明	町代表として出場する大会への派遣費であり、より多く助成できるようにする必要がある。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input checked="" type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	町代表として出場する大会への派遣費であり、より多く助成できるようにする必要がある。
----------	---	---

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	4(2)⑧	担当課	生涯学習課	担当者	築田 貴徳
事業名	七戸町スポーツ大会等選手派遣補助事業(県大会・東北大会・全国大会)				

事業費	財源内訳	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
		決算額(千円)	263	1,800	1,525
	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源	263	1,800	1,525	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	上位大会出場機会を支援することで、競技力の向上・競技スポーツの振興、生涯スポーツ振興を目的とする。	<input type="checkbox"/> 内容	町内スポーツ少年団及び体協所属団体等が、予選を経て東北・全国大会に出場する場合の対象経費(交通費宿泊費等)を補助する。(スポ少:対象経費1/1 体協加盟団体及び一般関係:対象経費1/2)
------	-----------------------------	---	-----------------------------	---

事業効果	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	項目(単位)			
スポーツ少年団		4 件 18 名	9 件 20 名	26 件 175 名
		176,000 円	323,000 円	1,267,000 円
一般		2 件 27 名	3 件 52 名	3 件 23 名
		87,000 円	1,477,000 円	258,000 円

事業評価	評価項目		評価	
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)	A
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	B	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	A	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	C (25%)	A
評価の説明	昨年度まで少年団の補助率が東北大会1/3・全国大会1/2だが、中学校部活動が1/1であることから、少年団も同等の扱いとした。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input checked="" type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	少年団の補助率を県大会・東北大会・全国大会を問わず、交通費宿泊費等対象経費を100%補助とした。
----------	---	--

事業評価シート

事業細目番号	4(3)①	担当課	生涯学習課	担当者	八嶋 靖希
事業名	スポーツ推進委員の研修				

事業費	財源内訳	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
		決算額(千円)	458	420	432
	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源	458	420	432	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	町民の心身の健全な発達と、明るく豊かな生活の形成に寄与する。	<input type="checkbox"/> 内容	スポーツの推進のための事業の実施に係る連絡調整並びに町民に対するスポーツの実技の指導、その他スポーツに関する指導及び助言を行う。
------	-----------------------------	--------------------------------	-----------------------------	--

事業効果	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	項目(単位)			
委員数		11名	15名	14名
会議数(行事数)		19回	20回	20回

事業評価	評価項目		評価	
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)	A
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	A	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	C (25%)	A
評価の説明	町民スポーツ交流会を実施する等、軽スポーツ普及に努めている。地域スポーツ推進に大きな役割を果たしている。25年度より町民スポーツ交流会を実施。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	①子供から高齢者までの参加 ②町内会、分館の多数参加 上記のことを踏まえた町民スポーツレクリエーション祭を実施したが、周知等を改善しさらに多数の参加を促す必要がある。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	4(3)②	担当課	生涯学習課	担当者	附田 良亮
事業名		B&G海洋体験学習実施事業 (B&G海洋体験セミナー及びB&G体験クルーズ)			

事業費	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度
		決算額(千円)		399	369
財源内訳	国・県支出金				
	その他		203	187	0
	町債				
	一般財源		196	182	0

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	海洋性レクリエーションや自然体験活動を通して、規律ある集団生活から、連帯感・団結心をもって友情を育み、ルールやマナー、礼節などの社会性を学ぶとともに、海に対する関心と理解を深める。	B&G海洋体験セミナー(沖縄県北部)、B&G体験クルーズ(東京都小笠原村父島)への参加費用を補助する。 <ul style="list-style-type: none"> ・対象 セミナー 小学5・6年及び中学生 計2名 <li style="padding-left: 20px;">クルーズ 小学4～6年及び中学生 計2名 ・補助 参加料及び旅費の約半額

事業効果	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度
		項目(単位)			
	海洋体験セミナー参加者数		2人	2人	0人
	体験クルーズ参加者数		2人	2人	0人

事業評価	評価項目		評価
	事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	
②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		B	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A	
評価の説明	青少年育成において大変貴重な体験であり、事業効果は高い。参加希望者は多いが、各海洋センターからの推薦人数はセミナー・クルーズとも2人と限られているため、公平性に欠ける。残念ながら、B&G財団で25年度からはセミナーの事業縮小、またクルーズが廃止となり、事業が継続できない。		

今後の取組・課題	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input checked="" type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	B&G財団で、セミナー・クルーズに変わる事業があれば、今までどおり参加希望者を募り、継続させていきたい。
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	4(3)③	担当課	生涯学習課	担当者	天間 正子
事業名	スポーツ顕賞				

事業費	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	決算額(千円)		323	413
財源内訳	国・県支出金			
	その他			
	町債			
	一般財源	323	413	381

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	スポーツ活動において町民の健康福祉の増進に功労があったもの又は広く町民の模範となるべきものを顕賞する。	<input type="checkbox"/> 内容	スポーツ顕賞(①スポーツ功労賞 ②スポーツ賞 ③スポーツ優秀賞 ④生涯スポーツ奨励賞)の顕賞を行う。 各種団体、県内外の高校から推薦してもらい、七戸町スポーツ顕賞審議会で審議し、受賞者を決定する。

事業効果	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	項目(単位)			
スポーツ功労賞受賞者数		個人1名	個人1人	個人3人
スポーツ賞受賞者数		個人5人	個人1人	個人1人
スポーツ優秀賞受賞者数		個人9人・団体1(6人)	個人11人・団体2(24人)	個人10人
生涯スポーツ奨励賞受賞者数		個人3人	個人1人・団体1(6人)	個人7人・団体1(6人)

事業評価	評価項目		評価
	事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	
②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A	
評価の説明	スポーツ活動で顕著な功績・成績のあった個人・団体の顕賞で、受賞者の功績を広く町民に周知することで、スポーツ活動への意欲・関心を高めるものであり、町のスポーツ振興へもつながっていくものであるため、継続が必要である。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	<ul style="list-style-type: none"> ・功労賞については、具体的な基準は難しいものがあるので、審議会及び担当者が統一見解を持っていないなければならない。 ・他県へ進学した町内出身の高校生等、顕賞にもれないよう努める。 ・現状のまま継続する。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	4(3)④	担当課	生涯学習課	担当者	附田 良亮
事業名	各種大会開催や合宿等の誘致				

事業費	財源内訳	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
		決算額(千円)	0	0	0
	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源				

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	町内にある、スポーツ施設の利用促進を図ることを目的とする。	各種大会及びイベント事業等の開催誘致。

事業効果	年度	23	24	25
	項目(単位)			
大規模な大会・イベント集客数		七体/6月:商業祭1千人、11月:そば博6千人	七体/6月:商業祭1千人、11月:そば博6千人	七体/6月:商業祭 千人
〃		七運/5月:高校野球県大会1千人、5月～10月:県サッカーリーグ3千人	七運/5月～10月:県サッカーリーグ3千人	七体/10月:そば博 6千人
〃		七体/4月:桜花柔道大会1千人、8月:防犯剣道大会1千人	七体/4月:桜花柔道大会1千人、8月:防犯剣道大会1千人	七体/4月:桜花柔道大会 千人
〃				七体/8月:防犯剣道大会 千人

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)		
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			B
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A
評価の説明	大きな大会・イベントを誘致することで、施設の利用促進に繋がり町の大きなPRにもなる。また、県・東北大会など、レベル高い試合に接する機会を提供できる。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	年次計画をしっかりと立て、規模の大きな大会対応できる施設の拡充へ向け整備する必要がある。
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	5(1)①	担当課	七戸中央公民館	担当者	蛭澤 久子
事業名	公民館運営審議員設置事業				

事業費	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	決算額(千円)		149	260
財源内訳	国・県支出金			
	その他			
	町債			
	一般財源		149	260

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	公民館が町民の意見を適切に反映し、民主的・効果的に運営されるために、運営審議員の協力を得て公民館運営を行う。	公民館事業に関することや公民館の運営について、説明や意見の聴取等を行う会議を年2回開催するほか、年1回研修会に参加し、公民館運営の改善を図り地域に開かれた公民館づくりを推進する。

事業効果	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	項目(単位)			
運営審議員数		10人	10人	10人
会議		2回	5回	2回
研修会		1回	1回	1回

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 効果は上がっている B 効果は上がっていない	A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A	
評価の説明	公民館運営審議会委員から意見や評価を得ることにより、地域に開かれた信頼される公民館づくりに貢献している。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	地域や公民館との関わりのある関係者の意見を広く求め、地域に開かれた公民館づくりを推進するために、継続が必要である。
----------	---	---

事業評価シート

事業細目番号	5(1)②	担当課	七戸中央公民館	担当者	蛭澤 久子
事業名	中央公民館(施設)事業				

事業費	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
	決算額(千円)	35,194	29,092	33,105	
	財源内訳	国・県支出金	1,500		
		その他		529	
		町債			
一般財源		33,694	28,563	33,105	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	生涯学習活動の拠点機能	公民館施設の利用促進を図り、各種学習機会の増進、文化団体育成支援を目的とする。

事業効果	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	項目(単位)			
	公民館利用者数(人)	16,874	16,812	16,754

事業評価	評価項目	評価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) 優先性が高い B (50%) C (25%) 低い	A
評価の説明	町が行うべき地域づくり支援にとって、公民館施設は地域活動の拠点であることから、多様化している町民のニーズに対して、本事業は優先性が極めて高い。利用者数は、前年度と比べ、ほぼ横ばいに推移したことから、本事業を安定的に実行し、町民に定着してきたと評価する。	

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	今後は、住民ニーズと効果的な利用法・啓発方法を考慮し、利用率の向上に努めなければならない。また、施設・設備について、定期的な保守点検を行い、利便性の高い施設・設備に努めなければならない。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	5(1)④	担当課	七戸中央公民館	担当者	蛭澤 久子
事業名	中央公民館講座開設事業				

事業費	年度	平成23年度		平成24年度		平成25年度	
		決算額(千円)		255		316	
財源内訳	国・県支出金						
	その他						
	町債						
	一般財源		255		316		373

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	町民の生涯学習として、知識の向上と教養を高めることにより、心豊かな生活を送るための一助となることを目的とする。	<input type="checkbox"/> 内容	平成25年度の講座内容一覧 ①ボクサイス'＆ピラティス教室②ふるさと探訪と史跡巡り③アウト'アにおけるリスキーマネジメント講習会④幼児体操教室⑤エアロビクス&シェイプアップサルサ教室⑥野菜づくり体験⑦石けんづくり教室⑧そば打ち教室⑨サバ料理教室⑩種差海岸トレッキング教室⑪幼児ヒップホップダンス教室⑫大坪川アドベンチャー教室
------	-----------------------------	---	-----------------------------	---

事業効果	項目(単位)	平成23年度		平成24年度		平成25年度	
		講座数(講座)		12		12	
	講座申込者数(人)		310		468		333
	講座延べ実施数(人)		534		1,408		1,251

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	A
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	A
評価の説明	平成23年度から3講座を変更したが、その申込者数は3倍、延べ実施人数は11.9倍に増加した。これは、幼児体操教室を一般募集ではなく、出前講座として実施し、回数を増やしたため、申込人数を確保できたことが要因である。その他の9講座は、前年度より微増となった。また、各年齢層を対象者とした講座をそれぞれ実施し、参加者も増加していることから、前年度と同様に有効性が確保されている。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	今後も、対象者、有効性、公平性等をより一層見極め、町民のニーズを考慮した講座を継続しなければならない。 また、講座をきっかけとした自主運営団体を奨励し、助言・支援に努めていく。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	5(1)⑤	担当課	七戸中央公民館	担当者	蛭澤 久子
事業名	寿大学開設事業				

事業費	財源内訳	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
		決算額(千円)	65	87	100
	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源	65	87	100	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	高齢者が「技術・技芸」「スポーツ」「健康」「一般教養」の学習を図り、長年にわたって培った豊富な経験、知識、技術をさらに高め、健やかで生きがいのある人生を送り、社会活動に参加する学習機会を提供することを目的とする。	6月:開講式(消費者問題講演) 7月:町外研修(十和田市現代美術館) 8月:手工芸教室(メルヘンチック花鏡) 9月:健康教室、読み聞かせ教室 10月:手工芸教室(羽子板壁飾り) 11月:軽スポーツ教室(グラウンドゴルフ) 12月:料理教室(お正月のおもてなし料理) 1月:ダンス教室、歌声教室 2月:閉講式(健康食講演)

事業効果	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	項目(単位)			
開催数		9回	9回	9回
参加者数(人)		295人	293人	358人

事業評価	評価項目		評価	
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)	A
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	A	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	C (25%)	A
評価の説明	「十和田市現代美術館」を解説つきでの研修は、参加者が大変興味を持って学習した。健康福祉課、青森県消費生活センターと連携を図り、学習内容を高め、コスト削減に努めてより充実したものになった。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	関係機関や関係課との連携を図り、学習内容をさらに充実させ、コスト削減に努める。また、幅広い年代(60代~80代)の方が入学するので、アンケート調査を実施したり、町民の意見や要望を取り入れ、施設、設備環境に配慮し、学習機会を提供する必要がある。
----------	---	---

事業評価シート

事業細目番号	5(1)⑥	担当課	七戸南公民館	担当者	三上 義也
事業名	七戸子ども英会話教室開設事業				

事業費	財源内訳	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
		決算額(千円)	286	363	309
	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源	286	363	309	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	国際交流の一環として、外国人講師の生きた英語に接するとともに、「読むこと、書くこと、聞くこと、話すこと」を楽しく英語に親しみ、国際感覚豊かな心を育むことを目的とする。
	<input type="checkbox"/> 内容	学年別に3クラスに分け、それぞれのクラスに合った内容で楽しく学んでいる。

事業効果	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	項目(単位)			
実施回数		25回	25回	26回
参加者数		844人	625人	851人

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	B (イ)	
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	B (ア)	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	C	
評価の説明	学習指導要領の改正に伴い、英語教育の見直しが行われたこともあり、依然としてニーズが高いが、民間でも教室が増えているので、国際交流(三沢基地)などの、体験に力を入れた方がいいと思う。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input checked="" type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input checked="" type="checkbox"/> その他(生涯学習課へ移管)	英会話教室の運営はサークルでの活動が可能、民間の教室も増えていることから現在の方法は見直しが必要。 また英語教育のニーズは高いので、今後行政として三沢基地との交流事業に取り組み英語を使う環境、異文化に触れる機会を増やす企画が必要だと思う。
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	5(1)⑦	担当課	南公民館	担当者	中原 さおり
事業名	「柏葉大学」開設事業				

事業費	財源内訳	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
		決算額(千円)	88	86	62
国・県支出金					
その他					
町債					
一般財源	88	86	62		

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	高齢者の生き甲斐づくりの為、健康・教養・趣味を軸とした各講座を開催し、社会教育活動に参加する機会を作る。	生涯学習のさらなる向上、充実を図る為、次のような講座を実施した。 講座 ①健康講座②清掃奉仕活動③山野草とあそぼう④パークゴルフ⑤ヨガ教室⑥思い出の歌教室⑦グランド・ゴルフ教室⑧タペストリーのお正月飾り教室⑨町外施設見学青森市⑩講演会 全10講座

事業効果	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	項目(単位)			
講座実施数		24回	21回	10回
参加者人数		444人	384人	196人

事業評価	評価項目		評価
	事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	
②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		B	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		A	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		A	
評価の説明	25年度は、実施方法が変わったこともあり、参加人数が減少。しかし、この事業は、60歳以上が対象の事業であることから、実施内容や実施方法を、今後、住民のニーズに応えられるよう更なる創意工夫し、継続して、高齢化社会の中、ますます内容の充実を図らなければならない必要がある。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input checked="" type="checkbox"/> その他(募集方法の見直しが必要)	地域のニーズに合った講座を企画立案し、より一層高齢者の生き甲斐・社会教育活動に参加する場の提供に役立つよう努力していく。また、男性の参加者が少ないので、実施内容など、適切かつ魅力ある設定が必要である。
----------	---	--

事業評価シート

事業細目番号	5(1)⑧	担当課	七戸南公民館	担当者	三上 義也
事業名	七戸南公民館講座開設事業				

事業費	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	決算額(千円)		368	266
財源内訳	国・県支出金			
	その他			
	町債			
	一般財源	368	266	288

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	地域住民の知識、教養を高め、健康の増進を図り、心豊かで潤いのある生活を目指す。講座を契機とした自主活動・グループ作りに繋げる。	地域住民や時代の要請に応じた生涯学習講座を種類別、年齢層別に開催。平成25年度は計9講座を開催した。 (創造の森トレッキング講座、絵手紙教室、エコクラフト教室、歴史講座、スキー講座、等)

事業効果	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	項目(単位)			
講座数		11講座	8講座	9講座
参加者数		385人	374人	463人

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	A
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	A
優先性が高い		低い	
評価の説明	生涯学習事業の要とも言える事業であり、より一層の充実が望まれるため、優先性は高い。参加者の満足度は概ね高く、充実しているといえる。		

今後の取組・課題 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	いずれの講座も満足度は高く、内容は充実しているといえる。今後も町民のニーズに合わせ、さらに展開していきたい。
---	--

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	5(1)⑨	担当課	七戸南公民館	担当者	三上 義也
事業名	七戸南公民館分館事業				

事業費	年 度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
	決 算 額(千円)	800	800	800	
	財源内訳	国・県支出金			
		そ の 他			
		町 債			
一般財源					

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的 地域住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与する。	<input type="checkbox"/> 内容 旧七戸中央区以外の4地区(野々上、西野、倉岡、鶴児平)に分館を設置し、各地区において特色のある事業を展開し、地域の生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与する。

事業効果	年 度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	項目(単位)			
	野々上分館運営委託金	200	200	200
	西野分館運営委託金	200	200	200
	倉岡分館運営委託金	200	200	200
鶴児平分館運営委託金	200	200	200	

	評 価 項 目	評 価
事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A
評価の説明	いずれの分館も分館長や分館主事を中心として特色のある事業を展開している。 南公民館としては、各分館の事業の周知の協力や、事業計画の助言に加え、適切な会計処理の指導を行っている。	

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	各分館とも安定した運営を行っている。今後他の地区との情報交換により、さらに充実した分館事業を行いたい。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	5(1)⑩	担当課	七戸南公民館	担当者	三上 義也
事業名	七戸町民大学開設事業				

事業費	年度	平23年度	平成24年度	平成25年度
	決算額(千円)		13	40
財源内訳	国・県支出金			
	その他			
	町債			
	一般財源	13	40	20

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	心豊かで、潤いある生活を創造できる町民像と、より良いまちづくりを目指し、時代の要請に即した現代的課題の講演会を開催する。	男女共同参画、歴史、まちづくり、健康等、時代に沿ったテーマの講演会を実施する。H25年度はまちづくり講座、健康講座の合計2講座を実施した。

事業効果	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	項目(単位)			
講座数		2	3	2
参加者		40	100	54

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	A
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	A
優先性が高い		低い	
評価の説明	実施した講座はすべて関係団体(自主団体等)との共同開催で実施している。コスト削減に関しては県事業の利用などにより、効率的に図られている。また住民ニーズや有効性については、例として民間団体にも積極的に企画に参加してもらうことで有用性をもたすことに成功した。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	平成26年度も前年引き続き町内の自主団体との共同開催を実施し「町民主体」の講演会事業としての方向性を強め、公民館はそのバックアップにまわるような運営方法を確立するよう努めていきたい。
----------	---	---

事業評価シート

事業細目番号	5(1)⑪	担当課	七戸中央公民館	担当者	蛭澤 久子
事業名	成人式開催事業				

事業費	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	決算額(千円)		500	399
財源内訳	国・県支出金			
	その他			
	町債			
	一般財源	500	399	461

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	町の将来を担う新成人の門出を祝うとともに、成人としての自覚を促し、さらなる成長を期する。	<input type="checkbox"/> 内容	①式典(国歌斉唱、町民憲章唱和、式辞、恩師からのメッセージ、記念品贈呈、誓いの言葉) ②記念撮影

事業効果	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	項目(単位)			
	対象者数	239人	226人	206人
	参加者数	144人	127人	129人
参加率	60.25%	56.19%	62.62%	

事業評価	評価項目			評価	
	事業	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			A
		②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
		③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 効果は上がっている B 効果は上がっていない			A
		④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
		⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
		⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A
	評価の説明 式典は静粛かつ厳粛に行われた。また、家族席を設けたこと、家族や友人どうしてスナップ写真を撮る場所や時間を設けたことは、出席者には好評であった。 成人としての自覚をもって式典にのぞみ成果は上がっている。				

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	今後も式典だけの開催の方向で検討している。 記念品の集合写真は、新成人を大きく撮影するように考慮する必要がある。
----------	---	---

事業評価シート

事業細目番号	5(2)①	担当課	七戸中央公民館	担当者	蛭澤 久子
事業名	文化協会の育成支援事業				

事業費	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
		決算額(千円)	800	800
財源内訳	国・県支出金			
	その他			
	町債			
	一般財源	800	800	800

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	各種文化団体及び、各種文化団体相互の交流を図り、文化の振興を目的に組織された七戸町文化協会の指導・支援。	<input type="checkbox"/> 内容	文化の振興を図るため、各種文化団体で組織する七戸町文化協会の文化振興事業を指導及び支援する。七戸町文化協会主催事業(文化講演会)を開催する。
------	-----------------------------	--	-----------------------------	--

事業効果	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	項目(単位)			
	文化協会登録団体数(団体)	57	57	51
	グリーンファーム演奏会参加数(人)			
	文化講演会参加数(人)		150	150

事業評価	評価項目		評価
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A
	(Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	A
	(Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	A
	優先性が高い	低い	
評価の説明	各種文化団体を統括する七戸町文化協会は重要であり、当該協会を有効的に継続するためには、財政面、ソフト面において支援が必要である。当該協会の必要性・妥当性・公平性・優先性は妥当であると評価できるが、効率性については、前年度の事業実績を精査のうえ、コスト削減する余地があるものと評価される。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	町の文化振興に対する必要性は大きいことから、継続して支援しなければならない。今後は、効率性に重点を置き、コスト削減に向けて当該協会に対し、指導・支援しなければならない。また、協会の自立を視野に入れた指導・支援も継続的に行っていく。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	5(2)②	担当課	七戸中央公民館	担当者	蛭澤 久子
事業名	七戸町連合婦人会育成事業				

事業費	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度
	決算額(千円)		400	400	400
財源内訳	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源		400	400	400

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	婦人の社会的地位の向上と婦人活動の育成を目的とする。	<input type="checkbox"/> 内容	婦人会活動に対する助言・指導等を行い、研修会、芸能発表会、ボランティア活動を自主的に計画実施、さらに各種研修会、七戸秋まつり流し踊り等の町内イベントへの参加を支援をする。
------	-----------------------------	----------------------------	-----------------------------	---

事業効果	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	項目(単位)			
加入単位数		9単位	9単位	9単位
会員数		168人	171人	169人

		評価項目		評価
事業評価	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 効果は上がっている	B 効果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	B コスト削減の余地はある	A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%) 優先性が高い	B (50%)	C (25%) 低い
評価の説明	婦人会の現行組織では、行政の依存度が高く自立運営を図ることは難しいが、各種研修会やボランティア活動を自主的に計画実施したり、町の行事に積極的に参加し、貢献している。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	新規加入者が少なく、組織の後継者の確保が難しい現状である。 地域に根ざした活動を積極的に行い、新規会員の増員を図る必要がある。
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	5(2)③	担当課	七戸中央公民館	担当者	蛭澤 久子
事業名	中央公民館だより発行事業				

事業費	年度	平成23年度		平成24年度		平成25年度	
		決算額(千円)	0	0	0	0	0
財源内訳	国・県支出金						
	その他						
	町債						
	一般財源		0	0	0	0	

事業概要	□ 目的	□ 内容
	社会教育・体育に関する多種多様な情報を提供し、意識高揚と啓蒙を図る。	毎月1回、中央公民館事業に関わる情報紙「中央公民館だより」を全世帯に配布する。

事業効果	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	項目(単位)			
	延べ毎戸配布数(世帯)	67,608	66,228	68,040

事業評価	評価項目			評価
	①必要性(町民が必要としていますか)			A
A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)				
評	②妥当性(町が行うべきですか)			A
	A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			
業	③有効性(期待された効果は上がっていますか)			A
	A 効果は上がっている B 効果は上がっていない			
価	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)			A
	A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			
評	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)			A
	A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			
価	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)			A
	A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			
評価の説明	「中央公民館だより」は、啓発記事を掲載するとともに、中央公民館講座等の参加申込用紙となっており、町と町民のコミュニケーションにおいて有効な媒体であると評価できる。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	今後も継続するとともに、町広報、町ホームページなど、新たな媒体の活用を検討する。その際、現状の評価が低下せず、コスト削減できる方法を選択しなければならない。
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	5(2)④	担当課	七戸中央公民館	担当者	蛭澤 久子
事業名	しちのへオータムフェスタ2013開設事業(舞台部門)				

事業費	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
		決算額(千円)	1,060	1,080
財源内訳	国・県支出金			
	その他	1,060	1,080	1,080
	町債			
	一般財源			

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	町経済団体並びに文化団体等が一丸となり、イベントを開催することで、地域産業及び文化等の振興発展に寄与することを目的とする。	舞台部門と展示部門を七戸町中央公園屋内スポーツセンターで開催。 文化団体、学習サークル、一般作品、保育園、その他各種団体の作品の展示、舞台上で学習成果発表を実施している。 七戸中央公民館は舞台部門を担当、展示部門は南公民館が担当している。

事業効果	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	項目(単位)			
参加団体数(舞台部門)		37	36	32

事業評価	評価項目		評価
	事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	
②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない		B	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		B	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		B (オ)	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		B	
評価の説明	舞台部門は、文化的活動を行っている団体の学習成果を発表できる唯一のイベントで、参加団体は計画的に取り組んで成果を発表をしているが、町民の関心が低く来場者数が少ない。		

今後の取組・課題	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input checked="" type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	はじめて展示部門と舞台部門が同一会場での開催となった。日頃の学習や研鑽の成果をより多くの町民に披露し、生涯学習を推進するために、各機関や団体と打ち合わせを密にし、今後も同一会場での開催が望ましい。
----------	--	--

事業評価シート

事業細目番号	5(2)⑤	担当課	七戸南公民館	担当者	三上 義也
事業名		しちのへオータムフェスタ2013開設事業			

事業費	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度
	決算額(千円)		1,060	1,080	1,081
財源内訳	国・県支出金				
	その他	1,060	1,080	1,081	
	町債				
	一般財源				

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	町経済団体並びに文化団体等が一丸となり、まつりイベントを開催することで、地域産業及び文化等の振興発展に寄与する。 南公民館は文化部門の事務局及び展示部門を担当。舞台部門は中央公民館が担当している。	七戸町中央公園屋内スポーツセンターにおいて文化団体、学習サークル、保育園・学校生徒その他各種団体の作品の展示を実施している。

事業効果	年度		平成23年度	平成24年度	平成25年度
	項目(単位)				
参加団体数		47	42	47	

事業評価	評価項目		評価
	評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	
②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他		A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 効果は上がっている B 効果は上がっていない		A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない		B	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他		B (ア)	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い		B	
評価の説明	ステージ部門と展示部門を同一会場で開催して2回目になる。来場者数は相乗効果で増加している。事業の公平性という面から見ると、会場を1年ごとに替えることも必要。コスト削減は可能だと思う。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input checked="" type="checkbox"/> その他(生涯学習課へ移管)	公民館講座の受講生や、学習サークル、文化団体の方々の作品を町民みなさまに披露できる場を持つることにより、さらに意欲的に学習に取り組むことが出来ると思われる。
----------	---	--

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	6(1)①	担当課	七戸中央公民館	担当者	蛭澤 久子
事業名	中央公民館図書室事業				

	年 度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
事業費	決算額(千円)	1,639	2,284	650
	財源内訳			
	国・県支出金			
	その他			
	町債			
	一般財源	1,639	2,284	650

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的 図書、記録その他図書室資料を整理、保存して町民の要求に応え、公平な資料の提供によって教養、調査に資する。	<input type="checkbox"/> 内容 図書室資料の収集、整備、相互貸借、町民サービス、巡回貸出の実施や図書等の購入を行う。
------	---	---

	年 度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
事業効果	項目(単位)			
	年間開館日数	334日	327日	327日
	図書購入費	1,500千円	500千円	500千円
	年間貸出冊数	1,886冊	4,867冊	4,769冊
	年間入場者数	3,646人	4,424人	3,959人

	評 価 項 目	評 価
事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A
評価の説明	図書室の利用者のニーズに対応した資料提供ができるように、蔵書のバランスを考慮し、一般図書・児童図書を収集整備した。また、貸出・予約・リクエストサービス等の充実に努め、図書室サービスの周知を図るため、「図書室だより」を発行している。	

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	図書購入費を有効に活用し、町民のニーズに対応しながら継続して収集整備をしていく必要がある。また、館内を利用しやすいように環境整備を行うとともに、町民に広報や公民館だより、図書室だよりを活用し、図書室をPRする必要がある。
----------	--	--

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	6 (1) ②	担当課	中央図書館	担当者	成田 真由美
事業名	図書館サービス事業				

事業費	財源内訳	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
		決算額(千円)	6,561	7,659	8,296
	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源	6,561	7,659	8,296	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	図書、記録その他必要な資料を収集・整理・保存して一般市民の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するという、図書館法に基づいたサービスを実施する。	図書館資料の収集・整備、貸出、レファレンスサービス、巡回貸出、集会行事の実施など。

事業効果	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	項目(単位)			
年間開館日数(日)		328	327	327
図書購入費(千円)		1,750	500	500
蔵書数(冊)		29,261	31,762	31,827
年間貸出冊数(冊)		10,889	13,034	13,475

事業評価	評価項目		評価	
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)	A
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	A	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	C (25%)	A
評価の説明	図書の収集については、蔵書バランスに考慮し整備するとともに、郷土資料の収集や、七戸町関連の新聞記事をスクラップにし、利用の促進を図っている。また、図書館サービスの周知を図るため、「図書館だより」を発行している。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	限られた予算・人員・施設面の中でも、できる限りのサービスは実施しているが、より充実したサービスに努める必要がある。
----------	---	---

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	6 (1) ③	担当課	中央図書館	担当者	成田 真由美
事業名	図書館協議会の運営				

事業費	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
	決算額(千円)	126	258	115	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源		126	258	115	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	図書館法に基づく図書館協議会の招集・運営。	委員は、図書館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、図書館サービスについて館長に対し意見を述べる。図書館は、委員の意見をもとに業務の改善に取り組む。

事業効果	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	項目(単位)			
	委員定数(人)	10	10	10
	開催回数(回)	2	5	2

事業評価	評 価 項 目			評 価
	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)			B
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他			A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない			A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない			A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他			A
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い			A	
評価の説明		委員から出された意見はその都度図書館運営に反映させ、事業の改善を行っている。平成25年度も、一部事業の運営にも参加してもらい、事業充実への協力もあった。		

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	今後継続して取り組んでいく。
----------	---	----------------

事業評価シート

事業細目番号	6(2)①	担当課	七戸中央公民館	担当者	蛭澤 久子
事業名	子どもの読書活動推進事業				

事業費	財源内訳	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
		決算額(千円)	12	24	24
	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源	12	24	24	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	すべての子どもがあらゆる機会、場所において自由で公平に読書を行うことができるよう、読書環境づくりを推進する。	<input type="checkbox"/> 内容	①おはなし会(春・夏・クリスマス・冬)開催と絵本の展示による啓発 ②朝の読み聞かせ(小学校) ③学校巡回配本(小学校・中学校・保育園) ④県立図書館事業を利用した巡回配本(保育園) ⑤読み聞かせボランティアの育成
------	-----------------------------	--	-----------------------------	--

事業効果	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	項目(単位)			
児童図書貸出冊数		1,975冊	1,963冊	1,332冊
おはなし会参加人数		292人	260人	382人
学校配本冊数		1,795冊	1,840冊	1,580冊

事業評価	評価項目		評価	
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)	A
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	A	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	C (25%)	A
評価の説明	子どもが読書への関心を高めるよう、小学校の朝の読み聞かせ、保育園での絵本の読み聞かせ、おはなし会等を開催し効果を上げている。こども読書活動推進のために、読み聞かせボランティアの連携と支援を行っている。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	子ども読書活動推進のため、本に親しめる環境整備と、読み聞かせボランティアの育成は、今後も継続して支援を行っていく必要がある。
----------	--	--

事 業 評 価 シ ー ト

事業細目番号	6(2)②	担当課	七戸中央公民館	担当者	蛭澤 久子
事業名	ボランティア活動の育成支援事業				

事業費	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
	決算額(千円)	0	0	0	
	財源内訳	国・県支出金			
		その他			
		町債			
一般財源	0	0	0		

事業概要	□ 目的	□ 内容
	町民の読書活動支援のため、ボランティア活動の促進を図ることを目的とする。	ボランティアの会員が、小学校での朝の読み聞かせ、保育園での絵本の読み聞かせ、各種団体等へのおはなし会を開催している。

事業効果	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	項目(単位)			
	朝の読み聞かせ回数	25回	24回	24回
	朝の読み聞かせ参加数	2,360人	2,691人	2,613人
	絵本の読み聞かせ回数	7回	12回	12回
絵本の読み聞かせ参加数	361人	474人	852人	

評 価 項 目		評 価
事業評価	①必要性(町民が必要としていますか) A 町民ニーズは高い B 町民ニーズは低い(ない)	A
	②妥当性(町が行うべきですか) A 町が行うべきである B 町が行う必要性は薄れている(ない) (Bの場合) (ア)国・県が行うべき (イ)民間で実施可能 (ウ)その他	A
	③有効性(期待された効果は上がっていますか) A 成果は上がっている B 成果は上がっていない	A
	④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか) A 公平に配分されている B 公平に配分されていない	A
	⑤効率性(コスト削減の余地はないですか) A コスト削減の余地はない B コスト削減の余地はある (Bの場合) (ア)受益者負担 (イ)事業の簡素・効率化 (ウ)民間委託 (エ)他事業との統合・連携 (オ)適切な財源の選択 (カ)その他	A
	⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類) A (75%) B (50%) C (25%) 優先性が高い 低い	A
評価の説明	会員が自主的に学習会を開いたり、各種研修会等に参加し、スキルアップに努めて読み聞かせ活動をしていることは、すばらしいことで、成果が上がっている。	

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	今後も研修会等の情報提供をし、会員のさらなるスキルアップを高めるように支援していく必要がある。

事業評価シート

事業細目番号	6 (2) ③	担当課	中央図書館	担当者	成田 真由美
事業名	子どもの読書活動推進事業				

事業費	年度	平成23年度		平成24年度		平成25年度	
		決算額(千円)	76	89	107		
財源内訳	国・県支出金						
	その他						
	町債						
	一般財源	76	89	107			

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	<input type="checkbox"/> 内容
	「七戸町子ども読書活動推進計画」に基づき、すべての子どもがあらゆる機会、場所において、自主的に読書を行うことができるよう、読書環境づくりを推進する。	①おはなし会の開催や絵本の展示による啓発活動 ②6ヶ月児健診を利用したブックスタート事業 ③学校巡回配本(月1回/低・高学年別) ④県立図書館事業「子どもの読書活動推進のための図書セット貸出」事業を利用した巡回配本。(保育園・幼稚園～家庭での読み聞かせ用絵本、中学校～「朝の読書」用児童書※七戸中のみ。) ⑤読み聞かせボランティアの育成

事業効果	項目(単位)	平成23年度		平成24年度		平成25年度	
		実績	目標	実績	目標	実績	目標
	おはなし会実績(回/人)	3/160		3/150		3/110	
	ブックスタート実績(人)	95		90		83	
	学校配本実績(人/冊)	3,831/8,820		3,658/8,331		3,476/7,355	
	図書セット巡回配本(ヶ所)	幼・保 7/中 1		幼・保 7/中 1		幼・保 7/中 1	

事業評価	評価項目		評価	
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)	A
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	A	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	C (25%)	A
評価の説明	子ども読書活動推進計画に基づき、おはなし会をはじめとした各種事業を実施し、子どもの読書への関心を高める活動を行っている。また、図書ボランティアの育成に関する支援も行っている。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	七戸町子ども読書活動推進計画をもとに、今後も継続して取り組んでいく。また、ボランティアの育成については、新規会員の確保も含め、支援を行っていく必要がある。
----------	--	---

事業評価シート

事業細目番号	6 (2) ④	担当課	中央図書館	担当者	成田 真由美
事業名	生涯学習の推進・支援事業				

事業費	財源内訳	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
		決算額(千円)	80	80	80
	国・県支出金				
	その他				
	町債				
	一般財源	80	80	80	

事業概要	<input type="checkbox"/> 目的	町民への学習機会の提供及び学習活動の支援を行う。	<input type="checkbox"/> 内容	①図書館講座の開講(年1講座全10回) ②読書団体等への資料提供の支援や、イベントへの協力等
------	-----------------------------	--------------------------	-----------------------------	---

事業効果	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	項目(単位)			
実施回数(回)		10, 1	10, 4	10, 4
参加延べ人数(人)		177, 40	177, 120	107, 120
講座名		「源氏おもしろ読み②」 “とっておきの話”懇話会①	「源氏おもしろ読み③」 “とっておきの話”懇話会②～⑤	「源氏おもしろ読み④」 “とっておきの話”懇話会⑥～⑨

事業評価	評価項目		評価	
	①必要性(町民が必要としていますか)	A 町民ニーズは高い	B 町民ニーズは低い(ない)	A
②妥当性(町が行うべきですか)	A 町が行うべきである	B 町が行う必要性は薄れている(ない)	A	
③有効性(期待された効果は上がっていますか)	A 成果は上がっている	B 成果は上がっていない	A	
④公平性(事業の効果が公平に配分されていますか)	A 公平に配分されている	B 公平に配分されていない	A	
⑤効率性(コスト削減の余地はないですか)	A コスト削減の余地はない	B コスト削減の余地はある	A	
⑥優先性(優先性の高い順に3段階に分類)	A (75%)	B (50%)	C (25%)	A
評価の説明	郷土作家の作品や古典作品を取り上げた講座は毎回好評であり、また、講座に絡んだ図書利用もあるため、今後も継続して実施する必要がある。その他、図書館を利用して研究等を行っている町民が中心となり、町の人や歴史にまつわる逸話の発表の場として「とっておきの話」懇話会を立ち上げ講演会を開催しており、運営等の協力・後援を行っている。			

今後の取組・課題	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 充実 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 引続き見直し検討 <input type="checkbox"/> その他()	継続実施しながらも、その他集会行事についても検討していく。
----------	--	-------------------------------